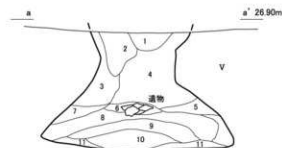
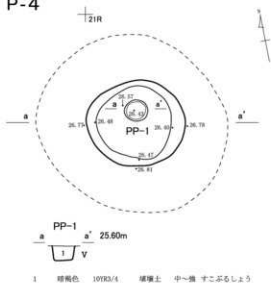
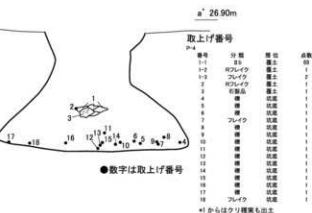
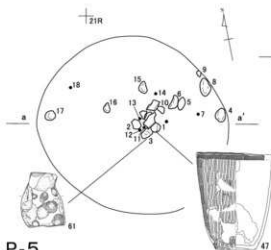


P-4

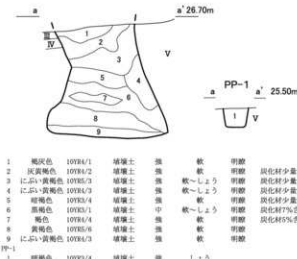
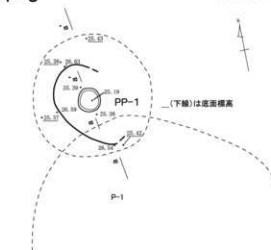


番号	土色	土性区分	粘着性	堅硬度	層厚
1	灰黄褐色	10YR4/2	粘壤土	強	明瞭
2	黄褐色	10YR4/1	粘壤土	やや軟	明瞭
3	にぶい黄褐色	10YR4/3	粘壤土	強	明瞭
4	褐色	10YR4/4	粘土	強	明瞭
5	暗褐色	10YR3/4	粘壤土	強	明瞭
6	にぶい黄褐色	10YR4/3	粘壤土	強	明瞭
7	暗褐色	10YR3/3	粘壤土	中	すこぶらしよう
8	褐色	10YR4/4	粘土	強	すこぶらしよう
9	にぶい黄褐色	10YR4/3	粘壤土	強	明瞭
10	にぶい黄褐色	10YR4/3	粘壤土	強	明瞭
11	黄褐色	10YR4/2	粘土	中	すこぶらしよう

炭化物2%含む



P-5



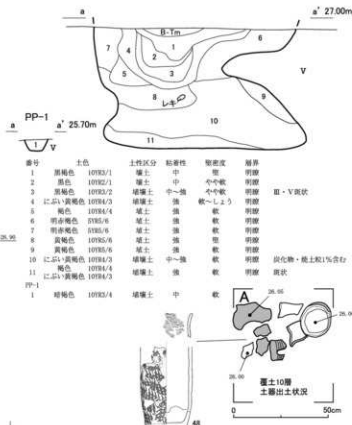
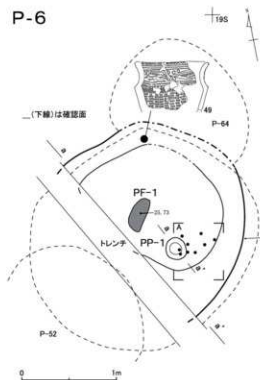
番号	土色	土性区分	粘着性	堅硬度	層厚
1	黄褐色	10YR4/1	粘壤土	強	明瞭
2	灰黄褐色	10YR4/2	粘壤土	強	明瞭
3	にぶい黄褐色	10YR4/3	粘壤土	強	明瞭
4	にぶい黄褐色	10YR4/3	粘壤土	強	明瞭
5	暗褐色	10YR3/4	粘壤土	強	明瞭
6	黄褐色	10YR4/1	粘壤土	中	明瞭
7	褐色	10YR4/4	粘壤土	強	明瞭
8	黄褐色	10YR4/2	粘壤土	強	明瞭
9	にぶい黄褐色	10YR4/3	粘壤土	強	明瞭

炭化物7%含む

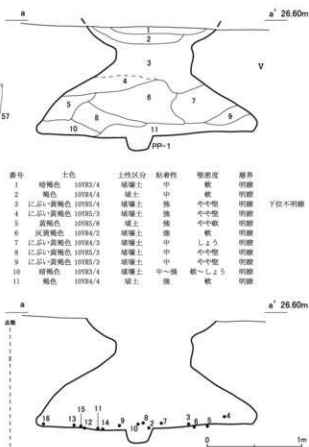
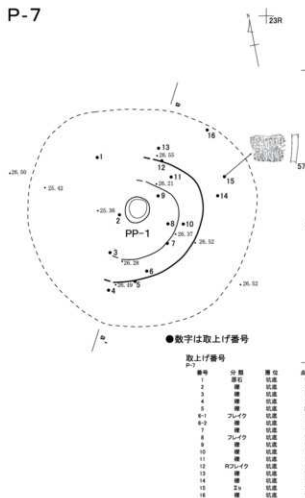
22V

図IV-23 P-4・P-5

P-6



P-7



図IV-24 P-6・P-7

P F-1はその場で焚かれたものではなく、入れられた焼土である。

遺物出土状況 遺物はⅡ群b類土器290点、Ⅲ群b類土器34点、石鏃2点、両面調整石器1点、つまみ付きナイフ1点、スクレイパー7点、Rフレイク2点、Uフレイク10点、剥片226点、石核3点、たたき石2点、扁平打製石器4点、礫17点の計599点である。覆土下位の10層からはⅡ群b類の円筒土器下層c式がまとまって出土（図V-11-48）した。坑底面からはⅡ群b類土器11点、Uフレイク2点、剥片7点、礫1点が出土した。

時期 人による覆土からⅡ群b類土器が出土していることから縄文時代前期後半である。

P-7

位置 23 R **規模** $1.37 \times (0.68) / 2.44 \times 2.37 / 1.18$ m **平面形（坑底面）** 円形

確認・調査 表土除去後にV層面で暗褐色〜にぶい黄褐色土のまとまりを検出した。遺構と想定しトレンチ調査を行ったところ、中央に小土坑がある平坦な坑底面と、鋭角にオーバーハングし頸部ですぼまり、開口部で開く土層断面を確認し、フラスコ状土坑と認定した。

覆土 11層に分層した。土坑検出のきっかけとなった覆土1層と覆土10層の暗褐色土を除き、V層主体のにぶい黄褐色・褐色・黄褐色土で、黒色土があまり混入しない、人による埋め戻しの土である。

付属遺構 坑底面のほぼ中央に小土坑（PP）1基を検出した。

遺物出土状況 遺物はⅡ群b類土器78点、石鏃1点、石槍・ナイフ1点、両面調整石器1点、筈状石器1点、スクレイパー4点、剥片85点、石核1点、磨製石斧1点、北海道式石冠1点、加工痕ある礫1点、礫138点、石製品1点など計327点で、このうち坑底面からはⅡ群b類土器1点、Rフレイク1点、剥片2点、加工痕ある礫1点、棒状礫13点が点在して出土した。Ⅱ群b類土器は円筒土器下層c式である。

時期 坑底面からⅡ群b類土器が出土していることから縄文時代前期後半である。

P-8

位置 18 P・19 P **規模** $1.37 \times 1.28 / 2.12 \times 1.94 / 1.16$ m **平面形（坑底面）** 円形

確認・調査 表土除去後にV層面で灰黄褐色〜にぶい黄褐色土のまとまりを検出した。遺構と想定し、トレンチ調査を行ったところ、平坦な坑底面と、鋭角にオーバーハングし頸部で窄まり、開口部で開く土層断面を確認し、フラスコ状土坑と認定した。

覆土 16層に分けた。覆土5〜16層までフラスコ状のくびれより下に堆積している土である。概ね覆土10〜16層までは東側が高く西側に低く偏っている。覆土6・7層は鋭角のオーバーハング部分の壁面が脆弱になり崩れかかっているもの、覆土8層は黒褐色土に厚みがあり、5層は焼土と黄褐色土の混じった土から遺物が出土している。開口部から頸部にかけは、1〜4層（灰黄褐色〜にぶい黄褐色土）がみられ、主に2層の灰黄褐色土が充填されている。覆土は人によるものである。

付属遺構 坑底の中心部よりやや南側に小土坑（PP）1基を検出した。

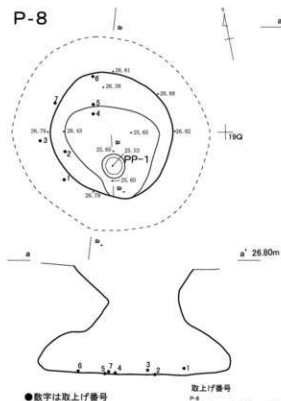
遺物出土状況 遺物はⅡ群b類土器31点、土製品1点、石鏃1点、スクレイパー2点、Rフレイク1点、剥片53点、石核1点、磨製石斧1点、加工痕ある礫1点、礫54点の計147点で、このうち坑底面からは剥片6点、礫2点が点在して出土した。Ⅱ群b類土器は円筒土器下層c式である。

時期 坑底面に時期を判断する遺物は無いが、周辺の遺構・遺物から縄文時代前期後半と考えられる。

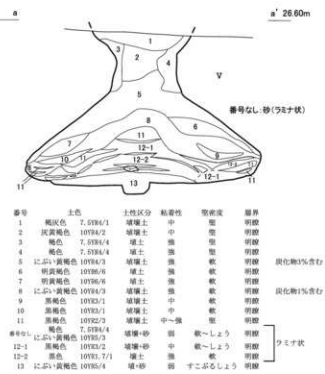
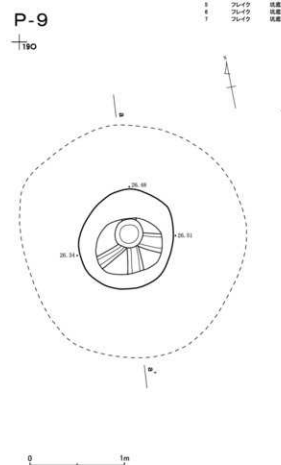
P-9

位置 19 O **規模** $1.07 \times 0.98 / 2.48 \times 2.35 / 1.64$ m **平面形（坑底面）** 円形

P-8



P-9



図IV-25 P-8・P-9(1)

確認・調査 表土除去後にV層面で褐灰色土のまとまりを検出した。遺構と想定し半截したところ、平坦な坑底面と土坑中央の小土坑、溝状遺構、鋭角にオーバーハングして立ち上がってくびれ、頸部で垂直に立ち上がり、開口部でやや開く壁を検出し、フラスコ状土坑と認定した。

覆土 13層に分層した。坑底面に近い覆土11～13層は黒褐色土とVI層の凝灰岩質礫層由来と考えられる砂質土とのラミナ状の土で、中心部が厚く坑底端が薄くなる山形の堆積である。流動性の低い土が坑口などの高いところから入れられ、安息角が生じ円錐形に堆積した土の断面である。山形の堆積を覆う覆土8・5層のふい黄褐色土があり、覆土6・7層は途中での壁面崩落である。頸部には覆土1～4層までの褐色～灰黄褐色土が充填されている。覆土は人為によるものである。

付属遺構 坑底のほぼ中央で小土坑(P-P)1基と、そこから東西方向、南北方向へ放射状に延びる溝状遺構(P-D)4か所を確認した。

遺物出土状況 遺物はⅡ群b類土器154点、石槍・ナイフ1点、両面調整石器2点、スクレイパー2点、Rフレイク3点、Uフレイク1点、剥片755点、石核1点、たたき石5点、すり石2点、原石3点、加工痕ある礫1点、礫194点、石製品1点の計1,125点で、このうち坑底面からはⅡ群b類の円筒土器下層c式3点が出土した。

時期 坑底面出土のⅡ群b類土器片と周辺の遺構・遺物から縄文時代前期後半である。

P-10

位置 19Q **規模** $2.29 \times 2.15/2.22 \times 2.02/0.28$ m **平面形(坑底面)** 楕円形

確認・特徴 H-2の床面精査により遺構の重複を確認した。半截したところ平坦な坑底面と急で明瞭な壁の立ち上がりを検出した。坑底面の平面形と規模、覆土の堅密度の軟性が強いことが他のフラスコ状土坑と同様のため、フラスコ状土坑の底部部分と判断した。

覆土 3層に分けた。3層は土坑の中心部が厚くなって堆積している。

遺物出土状況 遺物は覆土からⅡ群b類土器127点、剥片12点、礫10点の計149点が出土した。Ⅱ群b類土器は円筒土器下層c式である。

時期 周辺の遺構・遺物から、縄文時代中期後半のH-2に壊された縄文時代前期後半のフラスコ状土坑と判断する。

P-11

位置 20R **規模** $1.60 \times 1.58/1.20 \times 1.19/0.64$ m **平面形** 円形

確認・特徴 表土除去後にV層上面で明赤褐色土～黒褐色土のまとまりを検出した。遺構と想定して半截したところ、平坦な坑底面と急で明瞭な壁の立ち上がりを検出し、土坑と認定した。

覆土 8層に分けた。覆土5～8層は灰黄褐色～ふい黄褐色でローム質土が多く含まれる土、覆土4層は黒褐色土で、覆土2・3層は焼土が含まれている明赤褐色、暗赤褐色土が堆積している。

遺物出土状況 遺物は覆土からⅡ群b類土器2点、剥片6点の計8点出土した。

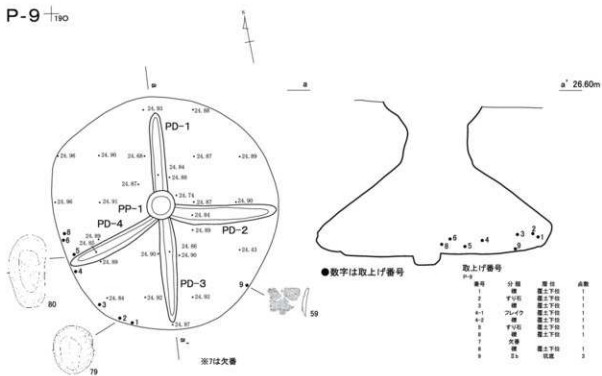
時期 時期を判断できる遺物の出土は無いが、周辺の遺構・遺物から縄文時代前期後半である。

P-12

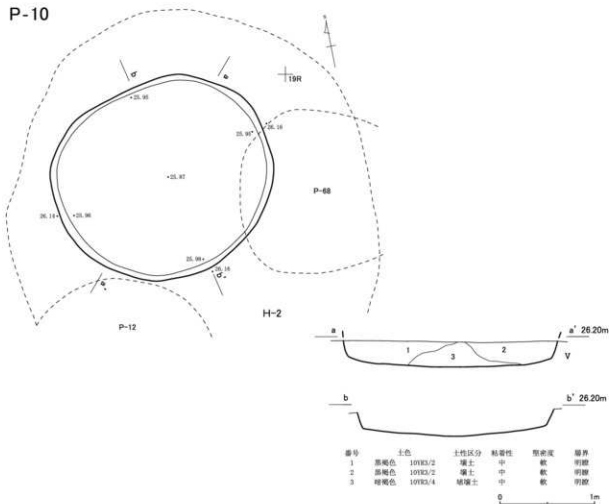
位置 19Q **規模** $0.86 \times 0.71/2.18 \times 2.07/0.74$ m **平面形(坑底面)** 円形

確認・特徴 H-2のトレンチ調査により土坑の土層断面を検出した。坑底面は平坦で、壁は鋭角にオーバーハングし立ち上がる。開口部と頸部はH-2構築により壊されている。

P-9



P-10



図IV-26 P-9(2)・P-10

覆土 11層に分けた。覆土1層は壁面が崩れた土、下位の覆土6～8層は山形の堆積で、覆土7層は焼土混じりの土である。上位の覆土2～4層はV層ローム質土主体の土で山形の堆積を覆っている。覆土は人為によるものである。

付属遺構 坑底の中央よりやや南側に小土坑（PP）1基、土坑東側の覆土下位で剥片集中（PFC）が2か所を検出した。PFC-1・2は小さなまとまりで、PFC-1からは両面調整石器1点と剥片20点、PFC-2からは剥片28点が出土した。

遺物出土状況 遺物は覆土からⅡ群b類土器114点、石鏃1点、両面調整石器4点、筈状石器1点、スクレイパー3点、Rフレイク4点、Uフレイク1点、剥片240点、石核2点、磨製石斧1点、たたき石1点、石皿1点、原石2点、礫49点の計424点出土した。特に土坑東側の覆土下位～坑底面にかけて遺物が多く出土している。Ⅱ群b類土器は円筒土器下層d1式である。

時期 覆土下位からⅡ群b類土器片と、周辺の遺構・遺物から縄文時代前期後半と判断する。

P-13

位置 19M・19N **規模** 2.03×1.99/1.80×1.78/0.87m **平面形** 円形

確認・特徴 表土除去後に暗褐色土のまとまりを検出した。遺構と想定して半載したところ、平坦な坑底面と直角に立ち上がる壁を検出し、土坑と認定した。

覆土 5層に分けた。覆土2～4層は黄褐色、にぶい黄褐色、灰黄褐色のローム質土が多く含まれる土で、覆土1層は土坑覆土のくぼみに流れ込んだものと思われる。

遺物出土状況 遺物は覆土からⅡ群b類土器9点、石鏃1点、スクレイパー1点、剥片138点、石核2点、礫10点の計161点出土した。Ⅱ群b類土器は円筒土器下層c式である。

時期 時期を判断できる遺物の出土は無い。周辺の遺構・遺物から縄文時代前期後半～中期後半と思われる。（袖岡）

P-14

位置 19T・19U **規模** 0.83×(0.73)/2.15×2.08/1.57m **平面形** (坑底面) 円形

調査・特徴 V層上面で黒褐色土のまとまりがみられたため、その北側をトレンチ状に掘り下げた。平坦な底面と壁の立ち上がりを確認し、土層断面の形状からフラスコ状土坑と判断した。土坑は開口部から急速に屈曲して細い頸部になり、坑底面へと斜めに広がる。

覆土 覆土は9層に分層した。最上位の覆土1層は黒褐色土で、その下位はV層主体の褐色土、にぶい黄褐色土とⅢ層主体の暗褐色土との互層である。

付属遺構 溝状遺構（PD）1か所を坑底面中央で確認した。規模は長さ2.16m、最大幅23cm、深さ9cmである。長軸は北西-南東方向で、南東側がやや深く掘り込まれている。

遺物出土状況 遺物は覆土からⅡ群b類土器10点、焼成粘土塊51点、Rフレイク1点、剥片53点、石核1点、礫149点の計265点出土した。Ⅱ群b類土器は小破片で、横位縄線文、隆帯の剥がれ痕、斜行縄文などの文様が観察され、円筒土器下層c式と考えられる。

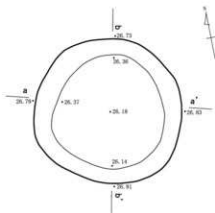
時期 出土遺物から縄文時代前期後半と考える。

P-15

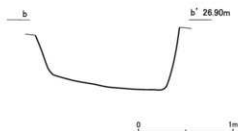
位置 18U・19U **規模** 1.00×(0.72)/2.00×1.97/1.78m **平面形** (坑底面) 円形

調査・特徴 V層上面で暗褐色土のまとまりがみられたため、その西側に広いトレンチを設定し、掘り下げ

P-11

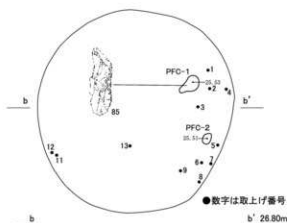
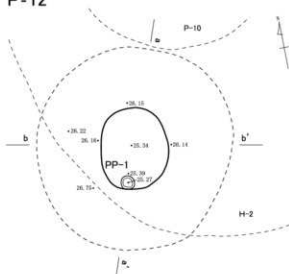


番号	土色	土性区分	粘着性	塑性度	層界
1	明褐色	7.5YR5/6	塊土	強	明瞭
2	明赤褐色	5YR5/8	塊土	強	明瞭
3	暗赤褐色	5YR5/6	塊土	強	明瞭
4	灰褐色	7.5YR3/2	塊土	中	明瞭
5	褐色	7.5YR4/3	塊土	強	明瞭
6	灰黄褐色	10YR4/2	塊土	中	軟～しろう
7	にぶい黄褐色	10YR4/3	塊土	強	明瞭
8	にぶい灰褐色	10YR5/4	塊土	強	明瞭



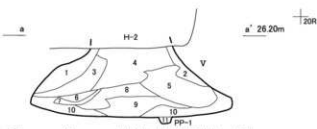
21R

P-12



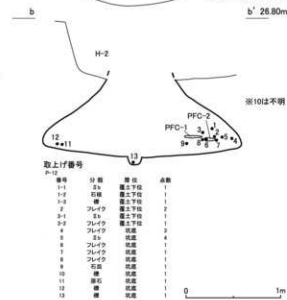
●数字は取上げ番号

b' 26.80m



番号	土色	土性区分	粘着性	塑性度	層界
1	黄褐色	10YR5/8	塊土	強	明瞭
2	にぶい黄褐色	10YR5/4	塊土	強	しろう
3	灰褐色	10YR4/1	塊土	強	明瞭
4	褐色	10YR4/1	塊土	強	明瞭
5	黄褐色	7.5YR3/2	塊土	強	明瞭
6	褐色	10YR4/1	塊土	強	明瞭
7	にぶい赤褐色	5YR4/1	塊土	中	明瞭
8	黄褐色	7.5YR3/2	塊土	強	明瞭
9	褐色	10YR4/1	塊土	強	明瞭
10	にぶい黄褐色	10YR4/3	塊土	強	すこぶらしろう
11	にぶい褐色	10YR5/4	塊土	強	しろう

炭化物1%含む



※10は不明

取上げ番号

P-12

層位

分層

層位

分層

層位

分層

層位

分層

層位

分層

層位

分層

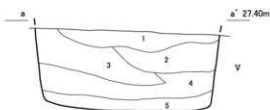
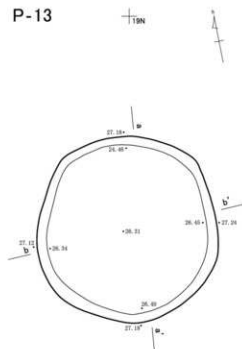
層位

分層

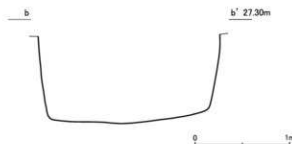
層位

図IV-27 P-11・P-12

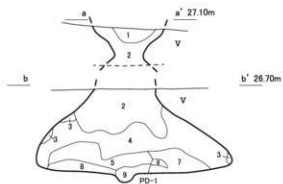
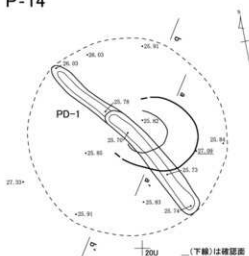
P-13



番号	土色	土性区分	粘着性	堅密度	層界
1	暗褐色 10YR3/3	硬壤土	中	軟	明瞭
2	黄褐色 10YR5/6	硬土	強	軟	明瞭
3	にぶい黄褐色 10YR5/4	硬壤土	強	軟	明瞭
4	灰黄褐色 10YR4/2	硬壤土	強	軟	明瞭
5	にぶい黄褐色 10YR6/4	硬土	強	中・硬	明瞭



P-14



番号	土色	土性区分	粘着性	堅密度	層界
1	暗褐色 7.5YR2/2	硬土	強	硬	自然 II・III
2	にぶい黄褐色 10YR4/3	硬土	強	硬	自然 V>III
3	褐色 10YR4/6	硬土	強	硬	自然 IV
4	暗褐色 10YR3/3	硬土	強	軟	自然 III>V
5	褐色 10YR4/6	硬土	強	軟	自然 V>III
6	暗褐色 10YR3/4	硬土	強	軟	自然 III>V
7	にぶい黄褐色 10YR4/3	硬土	強	硬	自然 V>III
8	暗褐色 10YR3/4	硬土	強	軟	自然 III>V
9	にぶい黄褐色 10YR4/3	硬土	強	硬	自然 V>III PD-1



図IV-28 P-13・P-14

た。底面と壁の立ち上がりを確認し、土層断面の形状からフラスコ状土坑と判断した。頸部は幅広く坑底面への張り出しは弱い。坑底面はⅥ層礫層を30 cm掘り込んだ面で平坦である。

覆土 覆土は9層に分層した。最上位の覆土1・2が暗褐色土で、一部に焼土のまとまりがみられる。それ以下はⅤ層主体の褐色土である。

付属遺構 小土坑(P P) 1基を坑底中央で確認した。平面形は長径43 cmの楕円形、深さは13 cmである。またP P-1 覆土上位には焼土のまとまりがみられた。

遺物出土状況 遺物は覆土中からⅡ群b類土器3点、Rフレイク1点、剥片1点、礫9点の計14点出土した。Ⅱ群b類土器は小破片で、摩耗している。

時期 出土遺物から縄文時代前期後半と考える。

P-16

位置 18 T **規模** 1.51 × (0.74) / 1.88 × (1.00) / 1.10 m **平面形(坑底面)** 円形?

調査・特徴 Ⅴ層上面でにぶい黄褐色土のまとまりがみられたため、その南西側をトレンチ状に掘り下げた。土層断面の形状からフラスコ状土坑と判断した。開口部が大きく開く形状で、やや小型のものである。土坑の南西側半分は、底面以下まで掘り下げてしまい、形状をとらえられなかった。

覆土 覆土は11層に分層した。上位はⅤ層主体の褐色土、にぶい黄褐色土で、下位は暗褐色土とⅤ層主体層が互層となって堆積する。開口部南側はくぼみがあり、その覆土2・4層間には焼土がみられる。

付属遺構 小土坑(P P) 1基を坑底中央付近で確認した。平面形は直径33 cmの不整な円形で、深さは6 cmと浅く、底面は皿状である。

遺物出土状況 遺物は覆土からⅡ群b類土器62点、石鐮1点、スクレイパー2点、剥片49点など、坑底面から磨製石斧2点、石錘1点、礫1点の計163点出土した。

時期 出土遺物から縄文時代前期後半と考える。(愛場)

P-17

位置 19 M・19 N **規模** 1.28 × (0.70) / 2.30 × 2.30 / 1.65 m **平面形(坑底面)** 円形

確認・特徴 H-4の調査で、壁の立ち上がりを検出中に土坑断面を確認した。H-4により壊されている北側を半載したところ、平坦な坑底面と鋭角にオーバーハングし立ち上がる壁の立ち上がりを検出し、フラスコ状土坑と認定した。口頸部はやや開き、幅の狭い頸部がある。

覆土 18層に分けた。開口部には灰黄褐色土、頸部には覆土2・3層のにぶい黄褐色土、褐色土が充填する。覆土4・6層は壁面の崩れたものである。覆土中位の覆土5・7～9層はローム主体土と暗褐色土で、下位の覆土16～18層を覆い山形に堆積していた。坑底面を覆う覆土16～18層は、16層が焼土を含む柔らかい土で炭化材や剥片集中が検出され、17層は明黄褐色土、18層は極暗褐色土が堆積している。覆土は人為である。

遺物出土状況 遺物はⅡ群b類土器213点、焼成粘土塊2点、石槍・ナイフ1点、両面調整石器7点、つまみ付きナイフ2点、スクレイパー5点、Rフレイク4点、剥片2,713(うちPFC-1は1,598)点、石核5点、たたき石1点、扁平打製石器1点、砥石2点、礫140点の計3,096点で、このうち坑底面からはⅡ群b類土器34点などが出土した。遺物は特に覆土16層から坑底面にかけて多く出土する。Ⅱ群b類土器は円筒土器下層c式である。

付属遺構 剥片集中(PFC)2か所、焼土粒の混じる土(PF)2か所、炭化物集中1か所を検出した。いずれも覆土下位の山形の堆積上位から中位にかけての遺物のまとまりや焼土、炭化物のまとまりである。

P-17

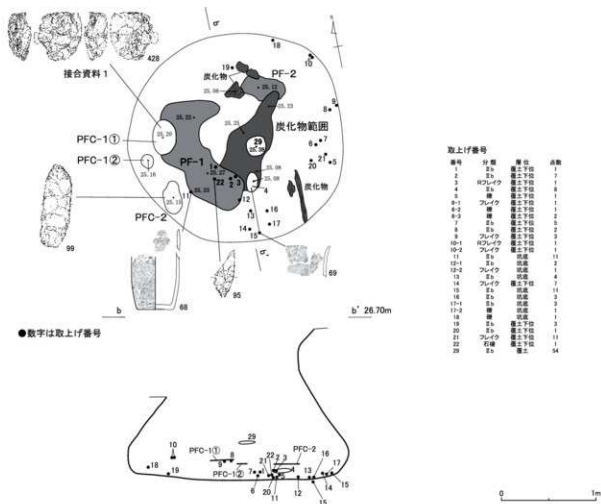
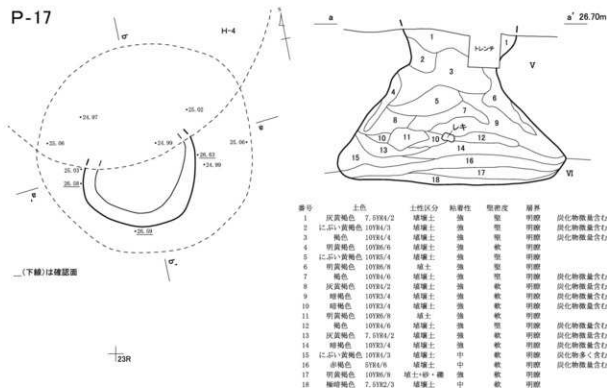


図4-30 P-17

ここからはⅡ群b類の円筒土器下層c式、石槍・ナイフ、両面調整石器、剥片など遺物が多く出土し、両面調整石器と剥片が接合し、原生素材に復元された（接合資料1）。

時期 人為による覆土下位から出土した遺物から縄文時代前期後半である。

P-18

位置 21Q 規模 $(0.79) \times 1.23 / (0.70) \times 0.87 / 0.37$ m 平面形 楕円形?

確認・特徴 H-4の調査で、壁の立ち上りを検出中に灰黄褐色土が落ち込む断面を確認した。遺構と想定し、トレンチ調査を行ったところ、やや南東に傾く坑底面と明瞭な壁の立ち上りの断面を検出し、土坑と認定した。H-4との重複により南側半分が壊され、平面形は不明である。

覆土 2層に分けた。

遺物出土状況 遺物はⅡ群b類土器9点、石錐1点、スクレイパー1点、Uフレイク1点、剥片12点、すり石1点、扁平打製石器1点、礫20点の計46点で、坑底面からは礫1点が出土した。Ⅱ群b類土器は円筒土器下層c式である。

時期 覆土からⅡ群b類土器片が出土していることと、周辺の遺構・遺物から縄文時代前期後半と思われる。

P-19

位置 19Q・20Q 規模 $0.82 \times 0.74 / 2.27 \times 2.06 / 0.97$ m 平面形(坑底面) 楕円形

確認・特徴 表土除去後にV層で褐灰色土のまとまりを確認した。遺構と想定しトレンチ調査を行ったところ、平坦な坑底面と鋭角にオーバーハングし立ち上がる壁の断面を検出し、フラスコ状土坑と認定した。削平により頸部、開口部は欠失している。

覆土 14層に分けた。下位の覆土9～14層は坑底中央部が厚く、坑底端に向かい薄くなっている山形の堆積である。流動性の低い土が坑口などの高いところから入れられ、安息角が生じ円錐形に堆積した土の断面である。覆土10層は焼土が混じる暗赤褐色土である。上位は覆土5層を除く覆土1～7層がV層ローム質土主体の土で、山形堆積を覆っている。覆土は人為である。

遺物出土状況 遺物はⅡ群b類土器108点、石鏃2点、つまみ付きナイフ1点、スクレイパー6点、Rフレイク1点、剥片102点、石核3点、礫89点の計312点出土した。土坑のくびれ部と覆土下位からは礫のまとまりが出土している。Ⅱ群b類土器は円筒土器下層d1式である。

時期 時期を判断する遺物の出土は無いが、周辺の遺構から縄文時代前期後半と判断する。

P-20

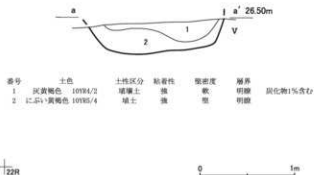
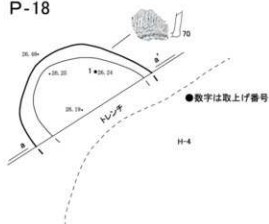
位置 20R・20S・21S 規模 $1.13 \times 0.99 / 3.20 \times 2.35 / 0.29$ m 平面形(坑底面) 不整な楕円形

確認・特徴 表土除去後にV層で暗褐色土のまとまりを検出した。遺構と想定し、落ち込みを半截するトレンチ調査を行ったところ、平坦な坑底面に横長のトンネル状に掘り込まれたオーバーハング部と、ややいびつな頸部の立ち上りの断面を検出し、フラスコ状土坑と認定した。坑底面は不整な楕円形である。

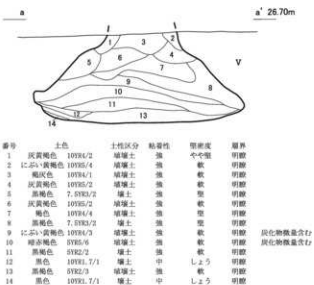
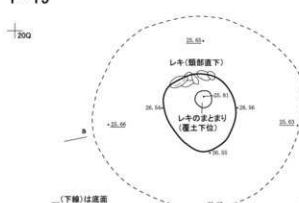
覆土 19層に分けた。覆土の下位から坑底面にかけての覆土13～17層は、土坑中央部が厚く坑底縁辺で薄くなる山形の堆積である。覆土中位の覆土7～12層は山形の堆積を覆い、オーバーハング部分を充填している土である。覆土上位の覆土1～6層は頸部を充填するローム質土主体土である。覆土は人為である。

遺物出土状況 遺物はⅡ群b類土器434点、焼成粘土塊1点、石槍・ナイフ1点、両面調整石器2点、石錐1点、スクレイパー12点、Rフレイク6点、Uフレイク1点、剥片226点、擦り切り残片1点、扁平打製石器3点、

P-18



P-19



図IV-31 P-18・P-19

礫 57 点の計 745 点で、坑底面からは扁平打製石器 1 点のみが出土した。

覆土中からは土器のまとまりを 4 か所（土坑の頸部付近に 2 か所、覆土下位、山形の堆積付近に 2 か所）検出し、円筒土器下層 b～c 式の土器片が数個体分（図 V-12-73～77）出土した。

付属遺構 坑底面中央に溝状遺構（PD）1 か所を検出した。

時期 人為による覆土からⅡ群 b 類土器と坑底面から扁平打製石器が出土したことから縄文時代前期後半である。（袖岡）

P-21

位置 18 K・19 K・19 L 規模 $1.00 \times (0.90) / 2.48 \times 2.17 / 1.33$ m 平面形（坑底面）楕円形
確認・調査 V 層上面で褐色のまとまりを確認し、まとまりの西側にトレンチを設定して全体を掘り下げた。西側半分を底部まで掘り下げた段階で、土層の断面形状からフラスコ状土坑と判断した。また土層断面には開口部から坑底面直上のにのびる杭穴状の痕跡（P-1）があった。この土層断面を記録後、P-1 を完掘し、その後土坑東側を調査した。覆土 15 層では炭化材が多く出土したため、採取し、樹種同定と放射性炭素年代測定を行った。覆土下位の遺物出土状況を記録、取り上げ、調査を終了した。坑底面は、V 層最下部～VI 層上面に構築され、坑底面から付属遺構は検出されなかった。本遺構のすぐ西側には F-17 がある。
覆土 覆土は 17 層に分層した。基本的には自然堆積と考えられる。坑底面直上では炭化物・炭化材が集中した覆土 15 層が確認された。坑底面は人為的に植物性のもので覆われていたものと考えられる。

付属遺構 覆土 15 層上部から開口部まで覆土中に杭穴（PP）1 基を確認した。PP-1 底面付近には、覆土 15 層に上部から押し込んだような痕跡が認められるため、出入口の構造を示すものかもしれない。

遺物出土状況 遺物は 1,332 点出土し、このうちⅡ群 b 類土器が 628 点、剥片が 577 点、礫 99 点が多くみられた。出土層位は覆土下位の覆土 15 層直上が多く、坑底面は少ない。Ⅱ群 b 類土器は円筒土器下層 d 1 式が主体で、すり石や扁平打製石器は被熱するものが多い。また坑底面直上からは、平面形が長径 13 cm の楕円形で、扁平な焼成粘土塊も出土した。

時期 出土遺物から縄文時代前期後半と考える。炭化材（Kor-14）の放射性炭素年代測定では、 ^{14}C 年代が $4,750 \pm 30 \text{ yr BP}$ という結果が出た。また樹種はクリである（付録参照）。

（熊谷）

P-22

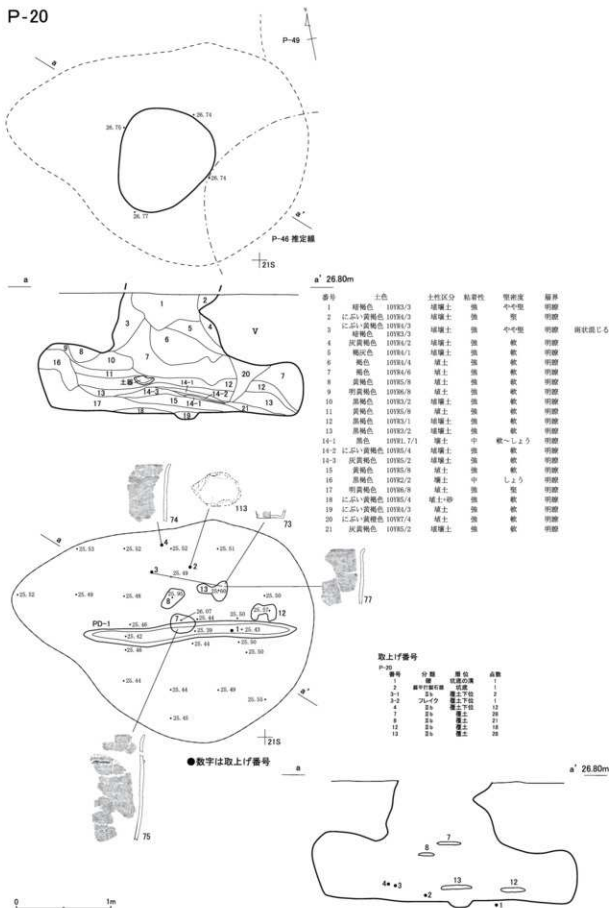
位置 21 S・21 T 規模 $1.54 \times 1.01 / 2.14 \times 2.05 / 1.33$ m 平面形（坑底面）円形

調査・特徴 21～23 S 区周辺では広範囲に黒褐色土のまとまりがみられた。大型の堅穴住居跡を想定して、まとまりの長軸の T ラインに 1 本、S 22・23 区には長軸に直交する 2 本のトレンチを設けた。トレンチを全体に約 1 m 掘り下げたところ、多数のフラスコ状土坑が断面で確認され、この範囲はフラスコ状土坑が密集するため全体に窪んでいることがわかった。本遺構はトレンチ調査中、剥片集中がみられたことから確認し、土層断面の形状からフラスコ状土坑と判断した。開口部は楕円形で、坑底面中央より、やや西側にずれている。坑底面直上の炭化物のまとまりからは、サンプルを採取し、樹種同定および放射性炭素年代測定を行った。坑底面西側は P-45 と切りあうが、出土遺物から本遺構が新しいと考える。

覆土 覆土は 7 層に分層した。覆土上位は黒褐色土層、覆土中位～下位は V 層主体の褐色土層で、褐色土層は周囲の V 層とあまり差がなく、見分けづらいものだった。最下層の覆土 7 層はⅡ・Ⅲ層と V 層が混じる暗褐色土が山形に堆積し、この層の中位に剥片集中、下位の坑底面直上には炭化材のまとまりがみられた。

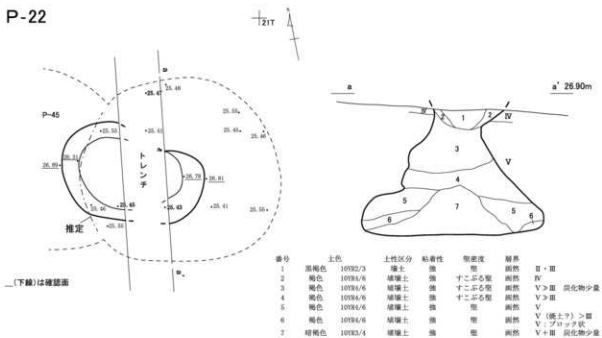
付属遺構 剥片集中（PFC）1 か所を覆土下位で、炭化物のまとまりを坑底面直上で確認した。PFC-

P-20

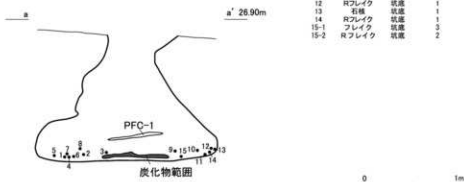


図IV-32 P-20

P-22



取上げ番号	分類	層位	点数
1	石核	坑底	1
2	鏃	坑底	1
3	鏃	坑底	1
4	鏃片	坑底	1
5	鏃	坑底	1
6	鏃	坑底	1
7	スクレイパー	坑底	1
8	鏃	坑底	1
9	鏃	坑底	1
10	鏃	坑底	1
11-1	フリレイク	坑底	4
11-2	Rフリレイク	坑底	1
12	石核	坑底	1
13	Rフリレイク	坑底	1
14	フリレイク	坑底	1
15-1	フリレイク	坑底	3
15-2	Rフリレイク	坑底	2



図IV-34 P-22

1の剥片は接合により、主に2つの頁岩原石に復元された(接合資料10・11)。炭化物のまとまりは、木材の形状を残すものがあり、樹種同定で、クリと同定された。

遺物出土状況 遺物は覆土下位を中心に6,464点出土し、このうち剥片が6,293(内PFC-1が6,219)点、礫104点、II群b類土器44点などが多い。坑底面出土の遺物はII群b類土器5点、スクレイパー1点、Rフレイク4点、剥片8点、石核2点、礫7点など少ない。覆土中のII群b類土器は円筒土器下層d1式が多く、内2点がH-5覆土とP-45覆土の土器と接合した(図V-17-140)。

時期 出土遺物や放射性炭素年代測定の結果から縄文時代前期後半で、P-45より新しいと考える。炭化物(Kor-15)の放射性炭素年代測定を行ったところ、 ^{14}C 年代が $4,670 \pm 30\text{yrBP}$ という結果が出た。また樹種はクリである(付篇参照)。

(愛場)

P-23

位置 17Q・18Q **規模** $0.86 \times 0.68/2.56 \times 2.17/1.62\text{m}$ **平面形(坑底面)** 楕円形

確認・特徴 表土除去後にV層で暗褐色土と明赤褐色土のまとまりを検出した。遺構と想定してトレンチ調査を行ったところ、平坦な坑底面と鋭角にオーバーハングし立ち上がる壁と細長い頸部、開き気味の開口部断面を検出し、フラスコ状土坑と認定した。開口部は坑底面の中心よりやや北東側に位置し、平面形は楕円形で、頸部の形状は円筒状である。

覆土 27層に分けた。覆土中位から坑底面までの覆土15～27層は黒色を帯びた土層とV層ローム質土主体の土層が互層になり、土坑中央部で高く坑底端で薄くなる山形の堆積である。流動性の低い土が坑口などの高いところから入れられ、安息角が生じ円錐形に堆積した土の断面である。覆土中位では覆土6・8層がオーバーハング部の壁面剥落土、覆土7～14層はローム質土がやや多く混じり、焼土も混じる(11・14層)土層で、山形堆積の上を覆うような堆積である。覆土上位の4層の褐色土は頸部～開口部を充填しており、開口部には覆土2・3層が堆積する。覆土は人為によるものである。

付属遺構 小土坑(P-P)2基と焼土(P-F)1か所を検出した。土坑頸部の真下の坑底面にP-P-1、坑底面に近い壁面にP-P-2を検出した。P-F-1は開口部の東側にある。

遺物出土状況 遺物はII群b類土器15点、両面調整石器1点、石錐1点、スクレイパー2点、Rフレイク1点、剥片36点、たたき石2点、扁平打製石器2点、原石4点、礫39点の計103点出土した。坑底面の中央付近からは石錐1点、両面調整石器1点、剥片8点、たたき石1点、礫13点などがまとめて出土した。II群b類土器は円筒土器下層c式である。

時期 遺構の形状と周辺の遺構・遺物から縄文時代前期後半である。

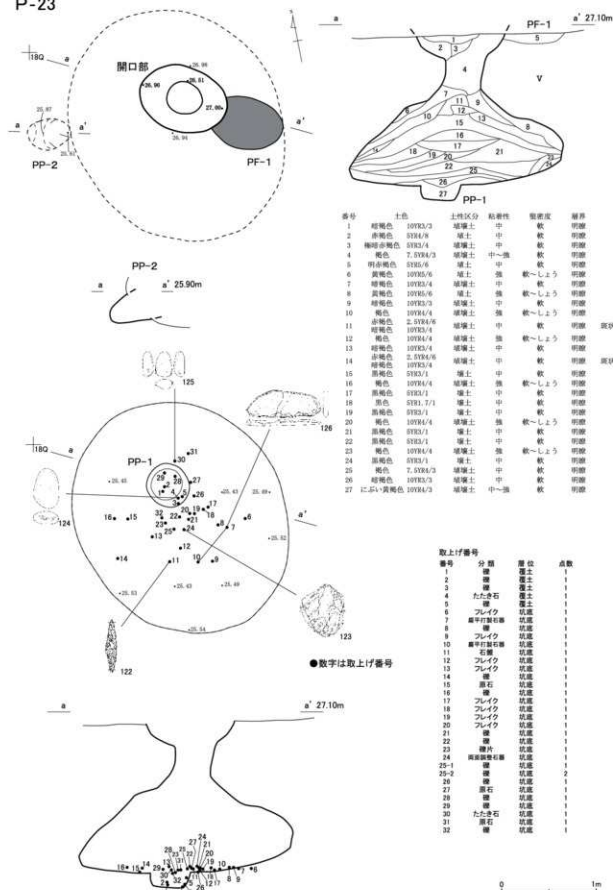
P-24

位置 18L・19L **規模** $0.93 \times 0.81/2.42 \times 2.30/1.40\text{m}$ **平面形(坑底面)** 円形

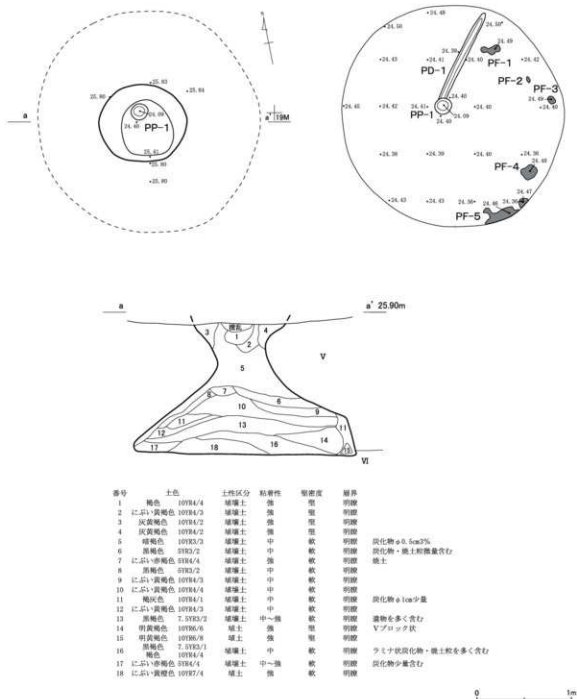
確認・特徴 表土除去後に暗褐色～灰黄褐色土のまとまりを検出した。遺構と想定してトレンチ調査を行ったところ、平坦な坑底面と鋭角にオーバーハングし立ち上がり、細くくびれた頸部と開き気味になる開口部の断面を検出し、フラスコ状土坑と認定した。坑底面の平面形は円形で、開口部と頸部は坑底中心部の真上に位置している。

覆土 18層に分けた。覆土下位から坑底面にかけては、焼土を多く含む土(16・17層)とにぶい黄褐色土(18層)が中心部で厚く端が薄く山形に堆積する。この層からは土器のまとまりや剥片集中、石器が多く出土する。その上位の覆土6～14層の土は山形の堆積を覆う堆積になっており、流動性の低い土が坑口などの高

P-23



図IV-35 P-23



図IV-36 P-24(1)

いところから入れられ、安息角が生じ円錐形に堆積した土の断面である。頸部には暗褐色を呈した覆土5層が充填し、開口部には覆土1～4層が堆積している。覆土は人為によるものである。

付属遺構 小土坑（PP）1基、溝状遺構（PD）1か所、焼土（PF）5か所、剥片集中（PFC）1か所、炭化物集中を検出した。坑底のほぼ中央にPP-1があり、PP-1から北東方向の壁際に伸びるPD-1がある。PF-1～5は焼土を多く含む土で、坑底面の壁近くに点在する。PFC-1と炭化物集中は土坑南側の覆土下位で検出した。PFC-1からは石核やRフレイク、剥片3,057点が出土し、これらを中心に石器が接合し、原石素材が復元された（接合資料2）。

遺物出土状況 遺物はⅡ群b類土器1,766点、石鏃1点、両面調整石器3点、石錐1点、つまみ付きナイフ3点、スクレイパー5点、Rフレイク11点、剥片3,729（うちPFC-1から3,057）点、石核6点、磨製石斧1点、扁平打製石器1点、砥石1点、原石5点、礫114点など、計5,648点出土した。

土坑北側の山形の堆積上面～坑底面にかけては土器のまとまりを数か所で検出し、Ⅱ群b類の円筒土器下層d1式の復元土器6個体（図Ⅳ-37-88～93）が得られた。土坑南側ではPFC-1、炭化物集中、礫石器、Ⅱ群b類の土器片が出土した。坑底面からは扁平打製石器や砥石（図Ⅳ-37-134・135）が出土した。

時期 覆土下位～坑底からⅡ群b類土器のまとまりが出土したことから縄文時代前期後半である。炭化材集中の炭化材は試料（Kor-16）を採取し、放射性炭素年代測定と樹種同定を行ったところ、¹⁴C年代は4,810±30yrBP、樹種はクリであった（付篇参照）。

（袖岡）

P-25

位置 18J **規模** (0.88) × (0.88) / 1.98 × 1.79 / 1.24 m **平面形** (坑底面) 楕円形

確認・調査 V層上面で褐色のまとまりを確認し、その東側にトレンチを設定し、掘り下げた。覆土中位（覆土4層）からは剥片集中が出土した。土層断面の形状からフラスコ状土坑と判断した。開口部付近は削平されている。

覆土 覆土は14層に分層した。基本的には自然堆積と考えられるが、剥片集中が検出された覆土4層については人為的な投げ入れと考えられる。

付属遺構 剥片集中（PFC）1か所を覆土中位で、小土坑（PP）2基と溝状遺構（PD）1か所を坑底面で確認した。PP-1は底面中央、PP-2は西側壁際にあり、いずれも平面形は円形である。深さはPP-1が12cm、PP-2は3cmと浅い。PD-1はPP-1から北東壁側へ伸びる溝状遺構で、長さは54cmと短いものである。

遺物出土状況 遺物はⅡ群b類土器515点、Ⅳ群土器10点、両面調整石器2点、剥片5,934点、石核1点、原石2点、礫32点、石製品1点の計6,497点出土した。このうちPFC-1では頁岩製の剥片5,850点、石核1点が出土し、図示していないが、石核と剥片数点が接合した。またPFC-1からはクリの炭化種実が2点出土した。覆土下位では土坑西側と南側から横倒し状態の円筒土器下層c式が3個体出土した。またPP-1の10cm程上部から板状の大型礫や土器片が出土した。

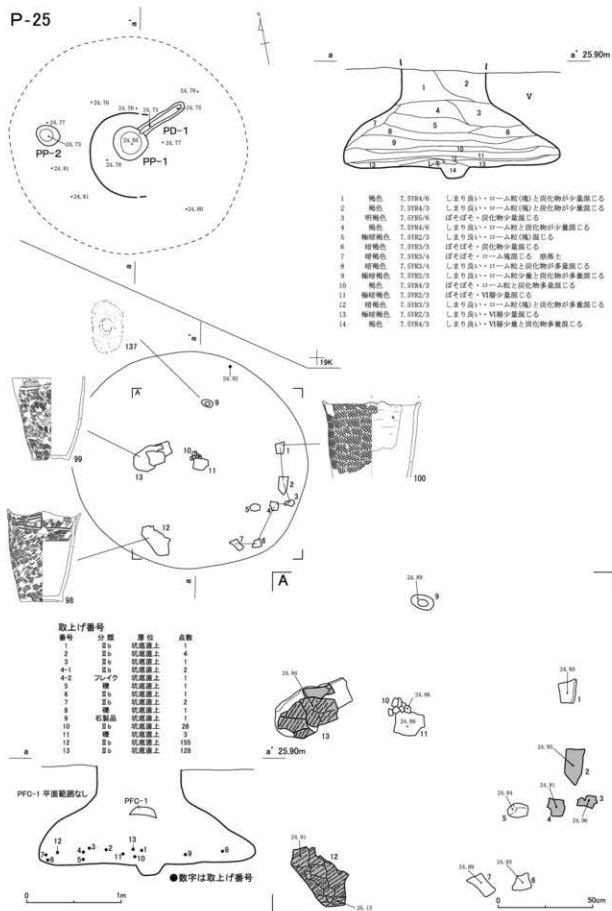
時期 出土遺物から縄文時代前期後半と考える。

P-26

位置 19J・20J **規模** 1.05 × 0.92 / 0.80 × 0.67 / 0.24 m **平面形** 楕円形

確認・調査 V層上面で、にぶい褐色のまとまりを確認し、その東側を掘り下げた。坑底面はV層中に構築されている。底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がり、断面の形状は皿状である。南西側の壁付近は小土坑

P-25



図IV-38 P-25

SP-5によって壊されている。付属遺構はない。

覆土 覆土は、にぶい褐色の単一層である。

遺物出土状況 遺物は出土していない。

時期 周辺の遺構から縄文時代前期後半の可能性がある。

P-27

位置 19 I **規模** $(1.10) \times 1.01/0.86 \times 0.70/0.19$ m **平面形** 楕円形

確認・調査 V層上面で、にぶい褐色土のまとまりを確認し、その東側を掘り下げた。坑底面はV層中に構築されている。坑底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がり、断面の形状は皿状である。付属遺構はない。中央より南寄りには小土坑SP-122が認められたが、新旧関係は不明である。

覆土 覆土は、にぶい褐色の単一層である。

遺物出土状況 遺物は出土していない。

時期 周辺の遺構から縄文時代前期後半の可能性がある。(熊谷)

P-28 : 欠番

P-29

位置 21 S・22 S **規模** $1.05 \times (0.52) / 2.40 \times 2.23/1.06$ m **平面形(坑底面)** 楕円形

調査・特徴 21～23 S区周辺のフラスコ状土坑が密集する範囲のトレンチ調査(P-22に詳細)で、トレンチの断面に遺構の底部付近の土層断面を確認した。トレンチを土坑中央側の東側へ拡張し、掘り下げたところ、フラスコ状の土層断面が確認され、フラスコ状土坑と判断した。断面形状は坑底付近が強く張り出し鋭角となり、坑底面は壁から中央へと傾斜する。覆土下位の7・8層上面では細い溝状遺構(PD-1)が確認され、その下位の土層からは土器や台石などの遺物が多く出土した。開口部南西側はP-44と切りあい、本遺構が新しい。また北側にはF-13が近接する。

覆土 覆土は10層に分層した。概ねV層主体の土層で、上位は黄褐色土・褐色土層、中位から下位は暗褐色土と褐色土の互層、最下層は褐色土層である。覆土3・4・7～9層は被熱により、やや赤みがかり、覆土1～4・8・10層では炭化物が少量混じる。また覆土8～10層では遺物が多く出土した。

付属遺構 溝状遺構(PD)1か所を覆土中位で、小土坑(PP)1基と溝状遺構(PD)2か所を坑底面で確認した。PD-1は覆土中、遺物が多く分布する上面で確認したもので、規模は長さ45 cm、幅5 cmで、東側はトレンチ調査で破壊した可能性がある。PP-1は坑底面中央にあり、平面形は長さ35 cmの楕円形で、深さは8 cmと浅い。PD-2・3は南北方向に伸びる直線的な溝状遺構で、PP-1を挟んで北側をPD-2、南側をPD-3と分けた。

遺物出土状況 遺物はII群b類土器806点、石鏃5点、スクレイパー10点、剥片195点、石皿1点、礫112点など計1,146点出土した。坑底面の石皿は砂岩製で非常にもろく、崩れて、取り上げ出来なかった。II群b類土器は円筒土器下層c式が主体で、覆土下位と坑底面では、それぞれ1個体がまとまって出土した。また覆土中炭化したクリの種実1点(破片)も出土した。

時期 出土遺物から縄文時代前期後半と考える。P-44より新しい。

P-30

位置 23 T **規模** $(0.65) \times (0.75) / 2.13 \times 1.94/1.11$ m **平面形(坑底面)** 楕円形

調査・特徴 V層上面で黒褐色土のまとまりがみられた。すぐ西側のP-37調査のトレンチを延長して掘り下げ、土層断面の形状からフラスコ状土坑と判断した。開口部は大きく開き、坑底面中央よりやや南側にずれている。上部は近現代の攪乱で一部破壊される。

覆土 覆土は8層に分層した。いずれもV層ローム主体土で、覆土1・5層は暗褐色土層、それ以外は褐色土層である。覆土2～7層は固く締まる。

付属遺構 小土坑(P-P)1基を坑底面中央で確認した。平面形は直径25cmの円形で、深さは9cmである。

遺物出土状況 遺物は覆土中からII群b類土器63点、石槍・ナイフ1点、剥片66点、磨製石斧1点、礫21点など計158点出土した。II群b類土器は小破片しかないが、文様から円筒土器下層c式と考える。

時期 出土遺物から縄文時代前期後半と考える。

P-31

位置 23R・23S **規模** 1.06×(0.49)/2.53×2.36/1.04m **平面形(坑底面)** 楕円形

調査・特徴 21～23S区周辺のフラスコ状土坑が密集する範囲のトレンチ調査(P-22に詳細)で、トレンチ断面に土層がみられ、その形状からフラスコ状土坑と判断した。上部は削平されており、坑底部の西側はP-58、北側はP-73と切りあい、このうち本遺構がP-58より新しい。

覆土 覆土は7層に分層した。覆土1層は明褐色土、覆土2～6層は褐色土層で、いずれもV層主体である。このうち覆土1～3・5層は固く締まる。最下層の覆土7層は黒褐色土が土坑中央に約20cm堆積するもので、遺物が多く出土する。小土坑P-P-1はこの黒褐色土層の直下であるが、褐色土層が堆積する。

付属遺構 小土坑(P-P)1基を坑底面中央付近で確認した。平面形は直径33cmの円形で、深さは17cmである。

遺物出土状況 遺物は覆土下位を中心にII群b類土器76点、石槍・ナイフ1点、石錐1点、つまみ付きナイフ1点、スクレイパー1点、剥片87点、たたき石1点、石錘2点、礫42点など計219点出土した。II群b類土器は胴部の小破片が多く細分できない。

時期 出土遺物から縄文時代前期後半と考える。P-58より新しい。

(受場)

P-32

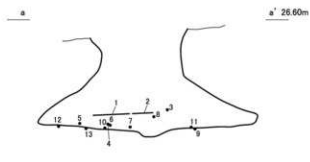
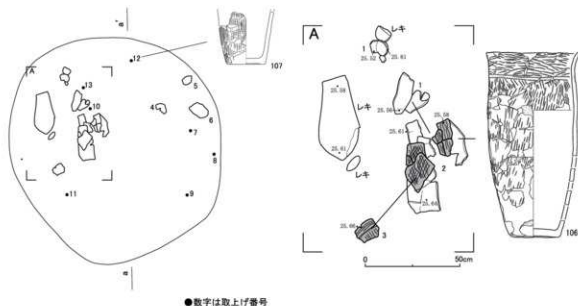
位置 18L・18M **規模** 1.10×0.80/2.52×2.24/1.35m **平面形(坑底面)** 楕円形

確認・特徴 表土除去後に暗褐色土のまとまりを検出した。遺構と想定しトレンチ調査を行ったところ、平坦な坑底と溝状遺構・小土坑、西側の壁面が鋭角にオーバーハングしくびれに向かう壁、東側が底部から直角気味に立ち上がり、途中から急角度にくびれに向かう壁、傘まるくびれ部、開口部が開く断面を検出し、フラスコ状土坑と認定した。

覆土 19層に分けた。全体的に黒色や黒褐色土の土が多く、ローム質土の混入が少ない。開口部と頭部には暗褐色～黒褐色土が堆積している。覆土下位～坑底面の覆土16～19層は、中心が厚く端が薄くなる山形の堆積になっており、流動性の低い土が坑口などの高いところから入れられ、安息角が生じ円錐形に堆積した土の断面である。覆土5～16層は山形の堆積を覆う土で、覆土9層は暗赤褐色土を呈する焼土を含んだ層である。くびれ部には覆土4層の黒褐色土が充填されている。覆土は人為と判断する。

付属遺構 小土坑(P-P)10基と溝状遺構(P-D)4か所を検出した。P-P-1は坑底の中央よりやや南側にあり、P-P-1を中心として東西に延びる溝状遺構の西側をP-D-1、東側をP-D-2とした。P-D-2からは南北方向に細く短い溝状遺構P-D-3・4が伸びる。P-P-2～10は土坑北西側(P-P-2～8)と南西側(P-P-9・10)の坑底面から直角気味に立ち上がる壁面にみられる柱穴様の小土坑である。杭

P-29

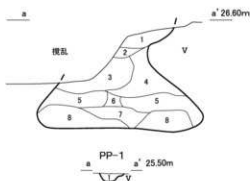
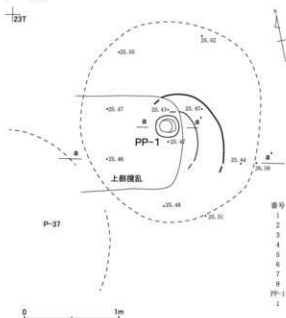


取上げ番号

番号	分類	層位	点数
1	2b	層土	62
2	2b	層土	88
3	2b	層土	73
4	2b	層土	19
5	2b	成層	29
6	2b	成層	28
7-1	2b	成層	4
7-2	2b	成層	2
8	2b	成層	1
9	2b	成層	8
10	2b	成層	2
11	2b	成層	1
12	2b	成層	1
13	2b	成層	1

0 1m

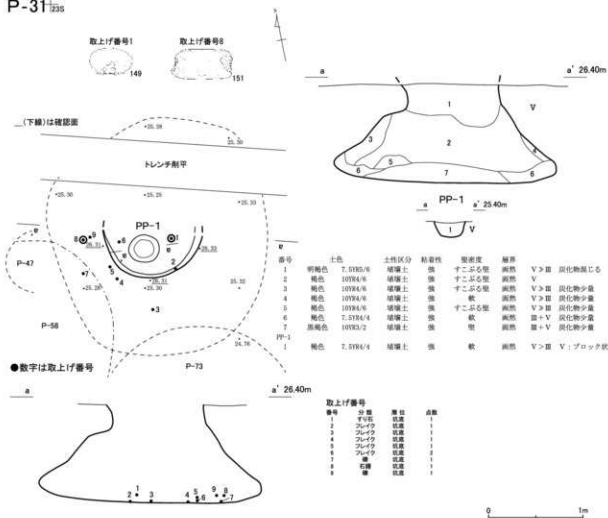
P-30



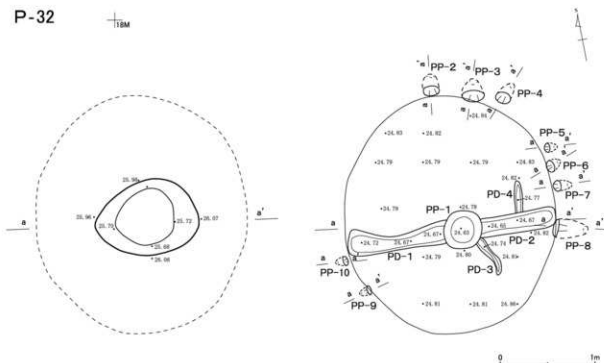
番号	土色	土地区分	粘着性	堅密度	層厚
1	暗褐色	10YR3/3	シルト質硬土	中	厚
2	褐色	10YR4/4	硬質土	強	面状
3	褐色	10YR4/6	硬質土	強	すこぶる堅
4	褐色	10YR4/6	硬質土	強	すこぶる堅
5	暗褐色	10YR3/3	硬質土	強	すこぶる堅
6	褐色	10YR4/6	硬質土	強	すこぶる堅
7	褐色	10YR4/6	硬質土	強	すこぶる堅
8	褐色	10YR4/4	硬質土	強	面状
PP-1	褐色	10YR4/6	硬質土	強	面状
1	褐色	10YR4/6	硬質土	強	面状

図IV-40 P-29(2)・P-30

P-31



P-32



図IV-41 P-31・P-32(1)

の角度は24～40度で、先端は尖るものが多い。

遺物出土状況 遺物はⅡ群b類土器106点、石鏃1点、石槍・ナイフ1点、両面調整石器3点、スクレイパー5点、剥片156点、石核1点、すり石1点、原石5点、礫107点、石製品1点の計387点出土した。坑底面ではPD-1・2より南側にⅡ群b類の円筒土器下層b式や石鏃、スクレイパーが点在していた。

時期 坑底面からⅡ群b類土器片が出土していることから縄文時代前期後半である。

P-33

位置 19P・19Q **規模** 0.55×0.54/2.38×2.12/1.24m **平面形** (坑底面) 不整の楕円形

確認・特徴 表土除去により灰黄褐色土のまとまりを確認した。遺構と想定しトレンチ調査を行ったところ、平坦な坑底面と鋭角にオーバーハングし立ち上がる壁の断面を検出し、フラスコ状土坑と認定した。坑底は不整な円形、頸部は狭く、開口部はあまり開かない。

付属遺構 開口部の真下、坑底面の中央に小土坑(P-1)、坑底面中央より南西側に焼土(PF-1)を検出した。PF-1は下層が明瞭なので、この面で焼成を受けたものではない。

覆土 21層に分けた。覆土下位～坑底面の覆土20・21層は坑底中心が厚く、坑底端で薄くなる山形の堆積で、覆土20層には焼土粒が混じる。壁面から崩れた覆土7・4・6層を除いた覆土8～19層までは山形の堆積を覆う土で、流動性の低い土が坑口などの高いところから入れられ、安息角が生じ円錐形に堆積した土の断面である。覆土1・3層は頸部に充填された暗褐色土で、覆土2層は、本来この幅で頸部が掘り広げられていたものが、V層ローム質の黄褐色土で充填し頸部を狭めたものと考えられる。覆土は人為である。

遺物出土状況 遺物はⅡ群b類土器30点、石鏃1点、石槍・ナイフ1点、両面調整石器2点、剥片51点、磨製石斧1点、たたき石3点、すり石1点、扁平打製石器2点、原石4点、礫62点の計158点出土した。このうち坑底面からはⅡ群b類土器1点、扁平打製石器1点、礫4点が出土した。Ⅱ群b類土器は円筒土器下層c式である。

時期 覆土下位～坑底面にかけてⅡ群b類土器片が出土していることから縄文時代前期後半である。

P-34

位置 18L **規模** 1.34×1.16/1.12×0.99/0.43m **平面形** 楕円形

確認・特徴 V層面について黄褐色～灰黄褐色土のまとまりを検出した。遺構であることが想定されたため半截したところ、平坦な坑底面と急で明瞭な壁の立ち上がりを確認し、土坑と認定した。

覆土 5層に分けた。V層ローム質土を多く含む覆土である。

遺物出土状況 遺物はⅡ群b類土器153点、両面調整石器3点、つまみ付きナイフ1点、剥片28点、石核1点、礫23点など計312点で、このうち坑底面からはつまみ付きナイフ1点、剥片2点、礫3点が出土した。

時期 時期を判断する遺物の出土は無いが、周辺の遺構・遺物から縄文時代前期後半と考えられる。

(袖圖)

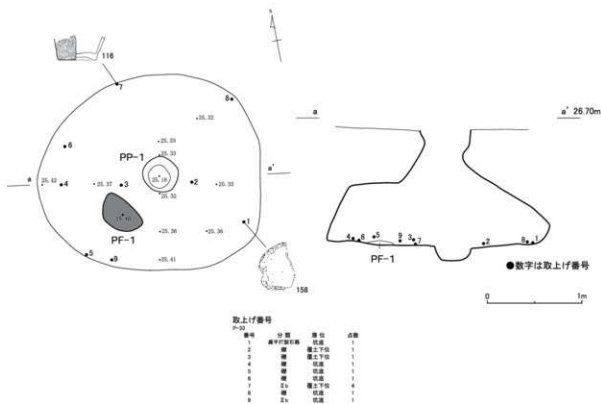
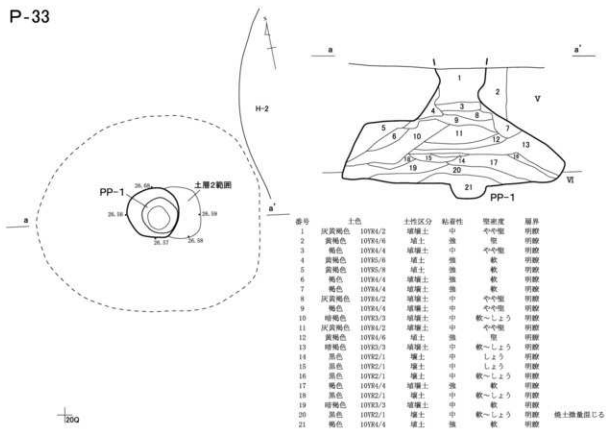
P-35

位置 20K・20L **規模** 0.89×0.78/0.48×0.45/0.47m **平面形** 楕円形

確認・調査 V層上面で、土器の小破片を伴う灰褐色土のまとまりを確認したため、その西側を掘り下げた。坑底面はV層中に構築され、平坦で、壁は曲線的に緩やかに立ち上がる。付属遺構はない。小土坑SP-70とSP-124によって切られている。

覆土 覆土は3層確認され、いずれも自然堆積層と考えられる。

P-33



図IV-43 P-33

遺物出土状況 遺物はⅡ群b類土器159点、礫1点の計160点である。Ⅱ群b類土器は円筒土器下層d2式で、覆土上部から小破片がまとまって出土した。

時期 出土遺物から縄文時代前期後半と考える。

(熊谷)

P-36

位置 22R・22S **規模** 0.69×(0.33)/2.11×2.10/1.58m **平面形(坑底面)** 円形

調査・特徴 21～23S区周辺のフラスコ状土坑が密集する範囲のトレンチ調査(P-22に詳細)で、トレンチに土層断面がみられ、その形状からフラスコ状土坑と判断した。開口部は開き、頸部部分は細長く、坑底面まで丸みを持って広がっていく形状で、坑底面はⅥ層の礫層を50cm以上掘り込んだ面である。P-60、SP-139が南側に近接する。

覆土 覆土は10層に分層した。覆土7層はⅥ層主体、それ以外はⅤ層主体の土層である。覆土2・3層は被熱し橙色のⅤ層ロームがブロック状に混じり、炭化物も少量みられる。覆土最下層の覆土9層は極暗褐色土層、覆土10層は暗褐色土層で、いずれも土質は柔らかい。

付属遺構 小土坑(P-P)1基を坑底面中央付近で確認した。平面形は長径35cmの楕円形で、深さは27cmである。覆土下位には炭化物が少量混じる。

遺物出土状況 遺物は覆土からⅡ群b類土器69点、つまみ付きナイフ1点、スクレイパー1点、剥片35点、礫49点など計156点出土した。Ⅱ群b類土器は胴部もしくは底部の破片で、細分は不明である。

時期 出土遺物から縄文時代前期後半と考える。

P-37

位置 23S・23T **規模** 0.74×-/2.73×2.56/1.42m **平面形(坑底面)** 円形

調査・特徴 21～23S区周辺のフラスコ状土坑が密集する範囲のトレンチ調査(P-22に詳細)で、トレンチ断面に底部へとオーバーハングする土層を確認し、フラスコ状土坑と判断した。頸部が幅約50cmと細長く、底面付近で大きく張り出す形状である。坑底部の西側がP-59と切りあうが、調査時に気づかず、新旧関係は不明である。また東側にP-30が近接する。坑底面でみられた炭化物を採取し、樹種同定と放射性炭素年代測定を行った。

覆土 覆土は7層に分層した。すべてⅤ層主体の土で、上位の覆土2～4層にはぶい褐色、褐色を呈し、固く締まる。覆土6・7層の下位には、それぞれ炭化物が層状にみられる。最下層の覆土7層は暗褐色土で、遺物が多く出土した。

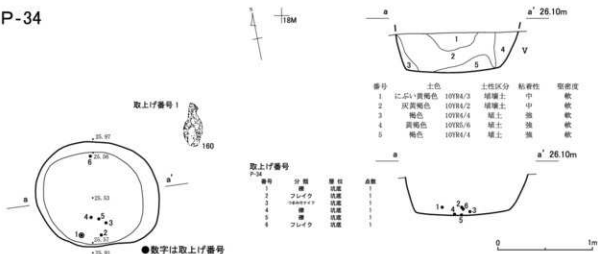
付属遺構 小土坑(P-P)1基を坑底面中央付近で確認した。平面形は長径34cmの楕円形で、深さは8cmと浅い。

遺物出土状況 遺物は覆土下位を中心にⅡ群b類土器210点、両面調整石器1点、つまみ付きナイフ1点、スクレイパー5点、剥片199点、石核1点、たたき石4点、原石6点、礫(棒状礫・亜円礫)81点など計516点出土した。坑底面ではスクレイパーやたたき石のほか、南西側の壁際で口縁部全周が打ち欠かれた円筒土器下層c式が、横倒しで潰れた状態で出土した。

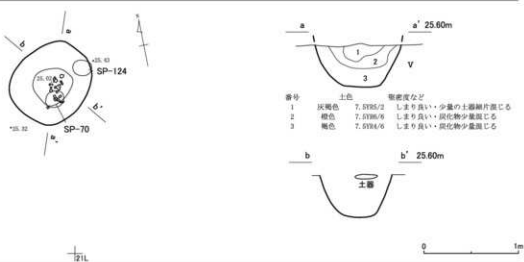
時期 出土遺物から縄文時代前期後半と考える。坑底面の炭化物(Kor-17)について放射性炭素年代測定を行ったところ、¹⁴C年代が4,730±30yrBPという結果が出た。また樹種はクリである(付篇参照)。

(愛場)

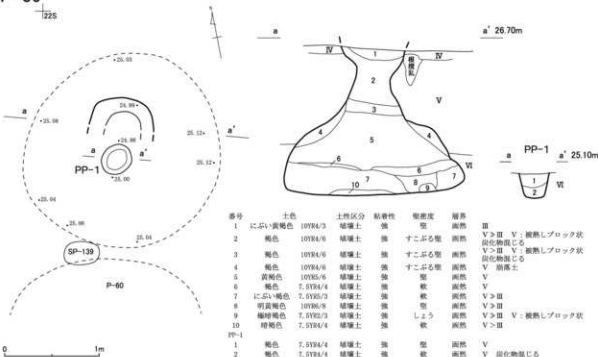
P-34



P-35

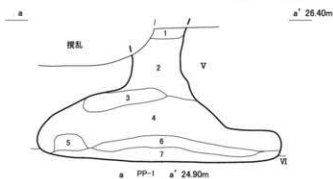
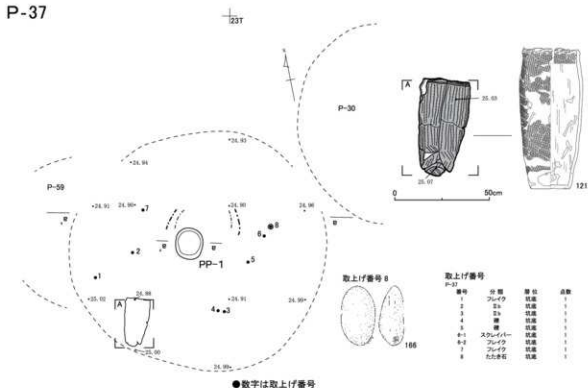


P-36

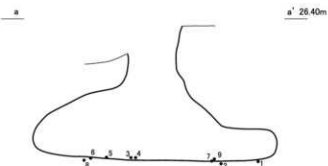


図IV-44 P-34・P-35・P-36

P-37

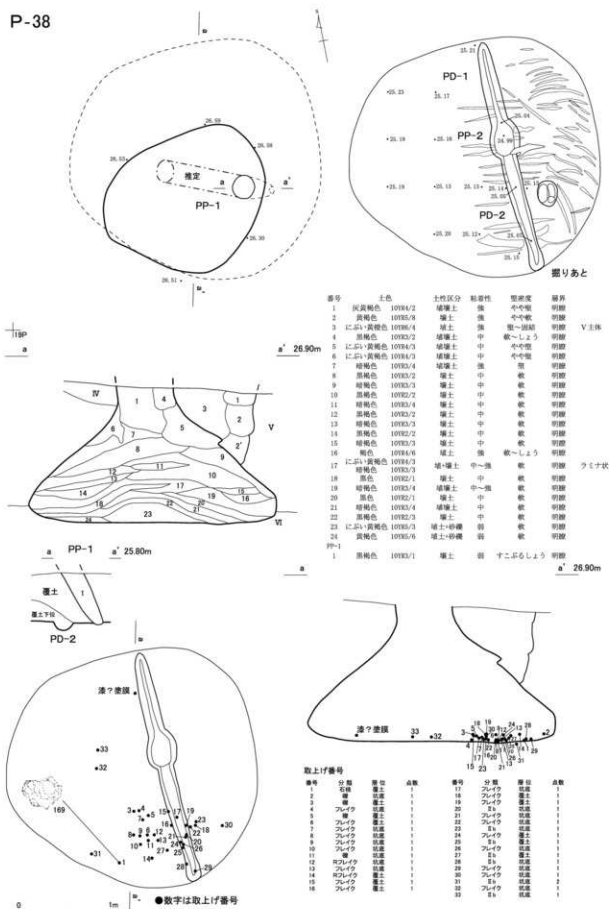


番号	土色	土性区分	粘着性	堅硬度	層界	備考
1	褐色	10YR4/5	硬質土	強	無	V > III
2	にぶい褐色	7.5YR5/4	硬質土	強	すこぶる堅	無
3	にぶい褐色	7.5YR5/4	硬質土	強	すこぶる堅	無
4	褐色	10YR4/5	硬質土	強	すこぶる堅	無
5	暗褐色	10YR3/2	硬質土	強	無	V > III V: 一部ブロック状
6	褐色	10YR4/5	硬質土	強	無	無
7	暗褐色	10YR3/2	硬質土	強	無	無
PP-1						
1	褐色	7.5YR4/4	硬質土	強	軟	無



図IV-45 P-37

P-38



図IV-46 P-38

P-38

位置 18P 規模 $1.80 \times 1.44/2.65 \times 2.55/1.47$ m 平面形(坑底面) 不整の円形

確認・特徴 表土除去後に灰黄褐色、にぶい黄褐色、黒褐色土のまとまりを確認した。遺構と想定しトレンチ調査を行ったところ、平坦な坑底面と鋭角にオーバーハングし立ち上がる壁の断面を検出し、フラスコ状土坑と認定した。

覆土 24層に分けた。開口部、頸部は掘り広げられていたと考えられ、土層断面の南側、覆土2層の南側が本来の掘削範囲と考えられる。土坑南側の壁から頸部にかけて、覆土3層のV層ローム主体の塊で埋めて狭い頸部になっている。頸部には1層の灰黄褐色土が充填され、覆土4層とした暗褐色土は土坑の東側を掘削したときに検出した杭穴P-1の上部であったことが考えられる。坑底直上の覆土23、24層はV層とVI層を主体とした土が山形の堆積になっており、頸部からの覆土7～22層は山形堆積を覆う土である。覆土は人為である。

付属遺構 杭穴1基(P-1)、小土坑1基(P-2)、溝状遺構(PD)2か所を検出した。P-1は覆土下位で確認されたもので、土層から覆土上部から坑底面にかけて杭が斜めにあったと推定される。坑底ではP-2と、P-2を挟んで南北方向に溝状遺構(北側をPD-1、南側をPD-2)がある。坑底面の東壁から中央部にかけては、鋭鋭な堀り具によるものとみられる筋状の掘削痕も検出された。

遺物出土状況 遺物はII群b類土器102点、石鏃2点、つまみ付きナイフ1点、両面調整石器3点、スクレイパー4点、Rフレイク2点、剥片442点(うち黒曜石6点)、石核3点、たたき石4点、すり石1点、扁平打製石器2点、原石2点、礫121点の計692点出土した。うち坑底面からはII群b類土器7点、剥片15点、礫11点が出土した。II群b類土器は円筒土器下層c式である。また漆製品と思われる塗膜片も覆土から出土した。

時期 坑底面からII群b類土器片が出土したことから縄文時代前期後半である。(袖岡)

P-39

位置 23S・23T 規模 $- \times - / 2.20 \times 1.97/1.50$ m 平面形(坑底面) 円形

調査・特徴 21～23S区周辺のフラスコ状土坑が密集する範囲のトレンチ調査(P-22に詳細)で、トレンチの断面に土坑の底部付近の土層を確認した。トレンチを拡張して、遺構の西側半分を掘り下げ、土層の断面形状からフラスコ状土坑と判断した。開口部が開く、やや小型の形状である。土坑東側には近接して埋設土器2があり、坑底部の北東側がP-55、西側がP-70と切りあうが、新旧は不明である。

覆土 覆土は8層に分層した。覆土2層はV層が被熱した焼土層で、それ以外はV層主体土で、色調は褐色、黄褐色を呈する。上位の覆土1～3層は固く締まる。

付属遺構 小土坑(P-1)基を坑底面中央で確認した。平面形は長径39cmの楕円形で、深さは6cmと浅く、断面は皿状である。

遺物出土状況 遺物は覆土中からII群b類土器59点、つまみ付きナイフ1点、スクレイパー2点、剥片28点、礫46点など計141点が出土した。II群b類土器は、円筒土器下層c式?と円筒土器下層d2式がある。

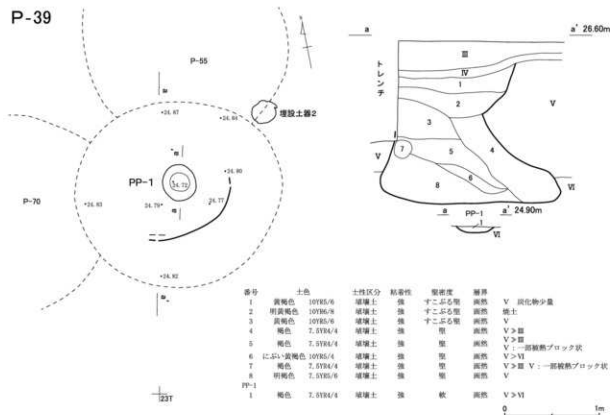
時期 出土遺物から縄文時代前期後半と考える。(愛場)

P-40

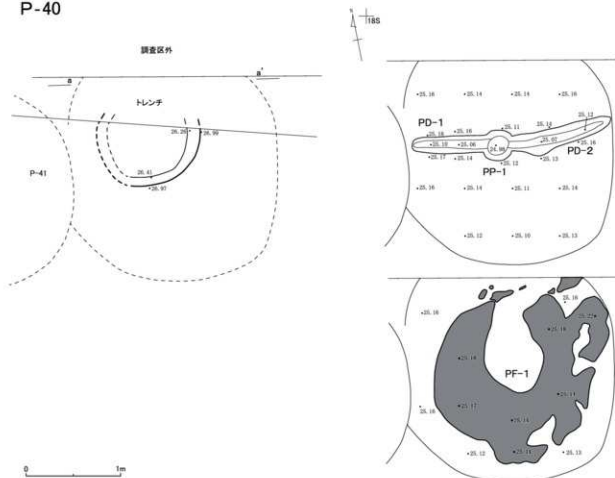
位置 18R 規模 $1.09 \times (0.65) / 0.85 \times (0.56) / 1.84$ m 平面形(坑底面) 不整の楕円形

確認・特徴 P-41のトレンチ調査で調査区北壁近くに暗褐色～黒褐色土のまとまりを検出した。遺構と想定し北壁側にトレンチ調査を行ったところ、平坦な坑底面とオーバーハングし立ち上がる壁を検出し、フ

P-39



P-40



図IV-47 P-39・P-40(1)

ラスコ状土坑と認定した。土坑の北側は調査区外にある。北壁側にトレンチを入れて確認したため、開口部からの土層断面を観察するのが困難なことから開口部は平面を実測し、土層断面は土坑北側のオーバーハング部分のものである。開口部は狭く、平面形は円形と考えられ、坑底面はやや不整な円形とみられる。

覆土 28層に分けた。土層断面には覆土上部に自然堆積とはやや違う層位の乱れが観察される(1・2・3・8層)。開口部の構築もしくは盛土遺構に係る削平等が推測される。覆土の上位(4・5・7層)と覆土の下位(21・24・25・27層)には焼土・炭化物を含む層があり、それ以外はV層ローム主体の土が人為の堆積により、わずかに色調の変化として捉えられた。土層断面は開口部より北側にずれているが、覆土の堆積状況は山形の堆積になっている。流動性の低い土が坑口などの高いところから入れられ、安息角が生じ円錐形に堆積した土の断面である。

付属遺構 坑底面には焼土と炭化物を多く含む層が広がっており、これをPF-1とした。PF-1を掘り下げると坑底面の中央に小土坑(P-1)と、そこから東西に伸びる溝状遺構(PD-2)を検出した。

遺物出土状況 遺物は覆土下位・PF-1・坑底面を中心にII群b類土器463点、石槍・ナイフ2点、両面調整石器1点、つまみ付きナイフ4点、スクレイパー6点、Rフレイク2点、剥片172点、石核2点、たたき石1点、すり石2点、扁平打製石器1点、原石4点、加工痕ある礫3点、礫84点の計747点出土した。II群b類土器は円筒土器下層c式である。

時期 坑底面と坑底焼土、覆土下位からII群b類土器が出土したことから縄文時代前期後半である。

P-41

位置 18Q・18R **規模** (2.00) × (0.48) / 2.51 × 2.14 / 1.90 m **平面形(坑底面)** 楕円形

確認・特徴 表土除去後に黒褐色にぶい黄褐色土の不整形なまとまりを確認した。遺構と想定しトレンチ調査を行ったところ、平坦な坑底面とオーバーハングし立ち上がる壁の断面を検出し、ラスコ状土坑と認定した。開口部の平面形はトレンチ調査により不明である。

覆土 28層に分けた。覆土下位の覆土22～28層は黒褐色や黒色土を主体とした層にぶい黄褐色や褐色土がはさまり、竊穴で南壁側が高く北側が低くなる傾斜した堆積である。覆土中位から下位の覆土8～21層はローム質土主体で、やや明るい色調になり、焼土を含む層やロームブロックが入り、南側が高い傾斜した堆積である。覆土2～7層はローム質土が主体の斑状の堆積である。覆土は人為によるものである。

付属遺構 坑底面のほぼ中央に小土坑(P)が1基検出した。

遺物出土状況 遺物はII群b類土器115点、石鏃1点、両面調整石器2点、つまみ付きナイフ2点、スクレイパー8点、Rフレイク7点、剥片70点、石核1点、擦り切り残片1点、たたき石1点、扁平打製石器3点、石皿2点、原石2点、礫64点の計279点出土した。II群b類土器は円筒土器下層c式である。

時期 時期を判断する遺物の出土は無いが、周辺の遺構・遺物から縄文時代前期後半である。

(袖岡)

P-42

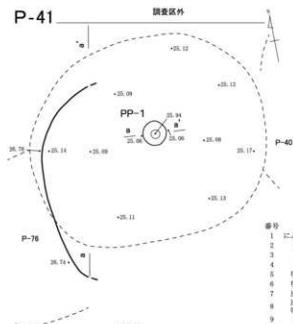
位置 18K・19J・19K **規模** 1.50 × (1.00) / 1.60 × 1.45 / 1.17 m **平面形(坑底面)** 楕円形

確認・調査 V層上面で、東側が大きな焼土(F-16)に切られている暗褐色土のまとまりを確認した。その北側にトレンチを設定し、掘り下げたところ、坑底面を確認した。土層断面の形状からラスコ状土坑と判断した。東側の開口部は大きく開き、坑底面は平坦で、周縁が僅かに高くなる。付属遺構はない。

覆土 覆土は11層に分層した。褐色・暗褐色土が主体で、埋め戻しの可能性がある。覆土3層～10層では炭化物、覆土8層では焼土塊が認められた。

P-41

調査区外

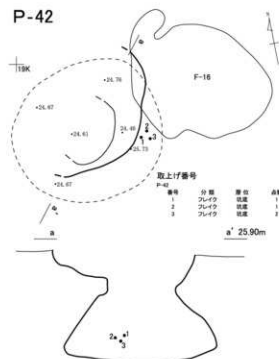


番号 土色 土性区分 粘着性 塑性度 境界

1 にぶい・黄褐色 10YR5/4 硬礫土 中 軟 明瞭

番号	土色	土性区分	粘着性	塑性度	境界	備考
1	にぶい・黄褐色 10YR5/4	硬礫土	強	硬	明瞭	炭化物 $\phi 0.5\text{cm}$ 含む
2	黒褐色 10YR3/1	硬礫土	中	軟	明瞭	炭化物 $\phi 0.5\text{cm}$ 含む
3	褐色 10YR4/6	硬礫土	強	軟	明瞭	
4	褐色 10YR4/4	硬礫土	強	軟	明瞭	
5	明黄褐色 10YR6/6	礫土	強	軟	明瞭	
6	明黄褐色 10YR6/8	礫土	強	軟	明瞭	
7	灰黄褐色 10YR4/2	硬礫土	強	軟	明瞭	
8	灰黄褐色 10YR4/2	硬礫土	強	軟	明瞭	炭化物 $\phi 0.5\text{cm}$ 含む
9	黄褐色 10YR7/8	礫土	強	硬	明瞭	Vブロック状
10	灰黄褐色 10YR4/2	硬礫土	強	軟	明瞭	炭化物と微土粒を少量含む
11	にぶい・黄褐色 10YR5/4	硬礫土	強	硬	明瞭	
12	灰黄褐色 10YR4/2	硬礫土	強	軟	明瞭	炭化物 $\phi 0.5\text{cm}$ 含む
13	黒褐色 10YR3/2	礫土	強	軟	明瞭	炭化物 $\phi 1\text{cm}$ 含む
14	灰黄褐色 10YR4/2	硬礫土	強	軟	明瞭	炭化物 $\phi 0.5\text{cm}$ 含む
15	灰黄褐色 10YR4/2	硬礫土	強	軟	明瞭	炭化物と微土粒を少量含む
16	にぶい・黄褐色 2.5YR4/4	硬礫土	強	軟	明瞭	炭化物微量含む
17	暗赤褐色 2.5YR3/1	礫土	中	軟	明瞭	
18	灰黄褐色 10YR4/2	硬礫土	強	軟	明瞭	炭化物 $\phi 0.5\text{cm}$ 含む
19	明黄褐色 10YR6/6	礫土	強	硬	明瞭	Vブロック状
20	暗褐色 10YR3/3	硬礫土	強	軟	明瞭	
21	灰黄褐色 10YR4/2	礫土・硬礫土	強	軟	明瞭	ブロック状・Vブロック状
22	黄褐色 10YR6/8	礫土	中	軟	明瞭	
23	にぶい・黄褐色 10YR5/4	硬礫土	強	軟	明瞭	
24	黒褐色 10YR3/1	礫土	中	軟	明瞭	
25	にぶい・黄褐色 10YR5/4	硬礫土	強	軟	明瞭	
26	黒褐色 10YR3/1	礫土	中	軟	明瞭	
27	褐色 10YR4/4	硬礫土	強	やや硬	明瞭	
28	黒色 10YR2/1	礫土	中	軟	明瞭	

P-42



取上げ番号

P-42

番号

分層

フレイク

分層

分層

分層

分層

分層

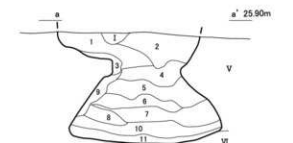
分層

分層

分層

分層

分層



番号	土色	粘着性・塑性度など
1	暗褐色 7.5YR3/4	しまり良い・黒色土塊混じる
2	暗褐色 7.5YR3/4	しまり良い・ローム粒と炭化物少量混じる
3	にぶい・褐色 7.5YR4/4	しまり良い・砂粒・小礫・ローム粒・炭化物少量混じる
4	褐色 7.5YR4/3	しまり良い・ローム粒(塊)と炭化物混じる
5	褐色 7.5YR4/3	ぼそぼそ・ローム粒(塊)と炭化物混じる
6	にぶい・褐色 7.5YR5/4	ぼそぼそ・ローム粒(塊)と炭化物混じる
7	暗褐色 7.5YR3/4	ぼそぼそ・炭化物混じる
8	褐色 7.5YR4/3	ぼそぼそ・微土塊(1~5cm)と炭化物多量混じる
9	明褐色 7.5YR6/6	ぼそぼそ・腐葉土
10	暗褐色 7.5YR3/4	ぼそぼそ・ローム粒(塊)と炭化物多量混じる
11	褐色 7.5YR4/3	ぼそぼそ・ローム粒混じる

図IV-49 P-41・P-42

遺物出土状況 遺物はⅡ群b類土器43点、石鏃1点、石槍・ナイフ4点、石錐1点、両面調整石器1点、スクレイパー4点、剥片102点など計172点出土した。このうち坑底面東側の壁際からは比較的大型の礫3点が出土した。Ⅱ群b類土器は円筒土器下層c式、円筒土器下層d2式がある。

時期 出土遺物から縄文時代前期後半と考える。

P-43

位置 20 K **規模** (1.14) × (1.00) / 1.49 × 1.26 / 0.63 m **平面形(坑底面)** 楕円形

確認・調査 V層上面で、南側を攪乱された黒褐色土のまとまりを確認し、東側にトレンチを設定して、掘り下げた。深さ約60 cmのV層中で坑底面を確認した。坑底面は皿状で、壁は坑底面から外反し、緩やかにすばまって立ち上がるフラスコ状土坑である。

覆土 覆土は6層に分けた。概ね黒褐色土層と褐色土層の互層となる。覆土3層には多量の炭化材が混じる。

付属遺構 溝状遺構(PD)1か所と浅い柱穴状土坑(PP)4基を坑底面で確認した。PD-1は坑底中央部を南東・北西方向に直線的に伸びる。PP-1〜4についてはSPなど別の遺構の可能性もある。

遺物出土状況 遺物はⅡ群b類土器376点、剥片3点、礫2点の計381点出土した。覆土4層と5層上部からはⅡ群b類の円筒土器下層b式がまとめて出土し、大型の土器(図V-17-136)が復元された。

時期 出土遺物から縄文時代前期後半と考えられる。(熊谷)

P-44

位置 21 S・22 S **規模** (1.12) × (0.64) / (0.75) × (0.57) / 0.46 m **平面形** 楕円形

調査・特徴 P-29調査時、土層断面南側に別の遺構の覆土がみられた。土層観察からP-29のほうが新しいことが分かったため、まずはP-29を調査し、その後、本遺構P-44を調査した。覆土を掘り下げて、坑底面や壁を確認し、小型の土坑と判断した。平面形は楕円形で、北東側をP-29の開口部に切られている。付属遺構はない。

覆土 覆土は2層に分層した。上部は褐色土層、下部は暗褐色土層で、いずれも固く締まっている。

遺物出土状況 Ⅱ群b類土器1点(摩耗)、剥片2点、礫1点の計4点が覆土から出土した。

時期 周辺の遺構などから縄文時代前期後半と考える。P-29より古い。

P-45

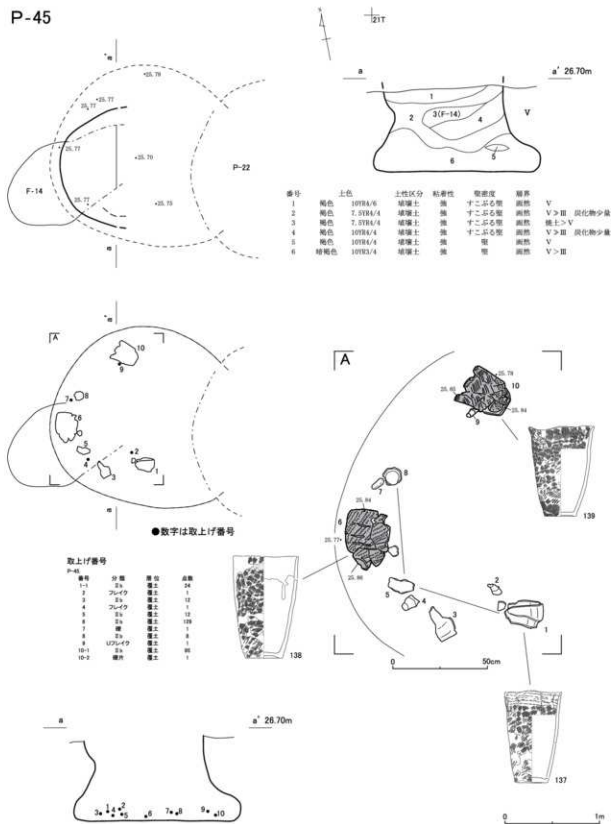
位置 21 S **規模** 1.27 × (0.60) / (1.88) × 1.89 / 0.92 m **平面形(坑底面)** 楕円形?

調査・特徴 P-29西側をトレンチで広く掘り下げたところ、トレンチ西側に別のフラスコ状土坑の断面を確認した。土層断面形状は開口部が広く寸胴で、坑底部付近で張り出す形状である。坑底部の東側はP-22と切りあい、西側には開口部から覆土4層上面(覆土3層)にかけF-14がある。P-22とは調査時は新旧関係不明であったが、出土遺物から本遺構が古いと考える。またF-14は覆土中位にみられることから、埋まりきらない状態で焼土が形成されたものとする。付属遺構はない。

覆土 覆土は6層に分層した。覆土1〜5層はV層主体の褐色土層で、覆土上位の覆土3層は、F-14焼土である。覆土1〜4層は固く締まる。最下層の覆土6層は暗褐色土層で、層厚20〜45 cmと比較的厚く堆積する。

遺物出土状況 遺物はⅡ群b類土器608点、つまみ付きナイフ1点、スクレイパー1点、剥片104点、石核1点、すり石1点、扁平打製石器1点、礫49点、石製品1点など計773点出土した。Ⅱ群b類は円筒土

P-45



図IV-51 P-45

器下層c式と円筒土器下層d1式があり、覆土下位からは円筒土器下層c式3個体が出土した。

時期 出土遺物から縄文時代前期後半と考える。P-45とF-14より古い。

P-46

位置 20R・20S・21R・21S 規模 $1.24 \times (0.34) / 2.52 \times (1.77) / 1.12 \text{ m}$

平面形(坑底面) 楕円形?

調査・特徴 V層上面で、周囲とは色調の違う褐色土のまとまりがみられたため、西側にトレンチを設定し掘り下げた。土層断面の形状からフラスコ状土坑と判断した。坑底部の北西側はP-20、南側はP-48と切りあいが新旧は不明である。東側にはF-3が近接する。

覆土 覆土は14層に分層した。上位の覆土1・2層は褐色土層で固く締まる。それより下位の覆土3～14層はやや黒味強い褐色土、暗褐色土層である。土坑中央下位の覆土11層は炭化物層、覆土13層は焼土主体の暗褐色土層である。覆土11～14層の土質は柔らかい。覆土11・13層以外はV層主体土である。

付属遺構 小土坑(P-P)1基を坑底面中央で確認した。平面形は直径30cmの円形で、深さは12cmである。

遺物出土状況 遺物は覆土中からII群b類土器85点、両面調整石器2点、つまみ付きナイフ1点、剥片44点、石鋸1点、礫72点など計207点出土した。II群b類土器は円筒土器下層c式である。

時期 出土遺物から縄文時代前期後半と考える。

P-47

位置 23R 規模 $0.67 \times (0.30) / 0.40 \times (0.21) / 0.38 \text{ m}$ 平面形 円形?

調査・特徴 P-31調査中、トレンチの壁に別遺構の覆土がみられた。掘り下げたところ、平面形が円形と推測される小型の土坑と判断した。P-58の北東側に位置し、東側にはP-31が近接する。付属遺構はない。

覆土 覆土は黄褐色土層で、周囲のV層とあまり変わらない。炭化物が少量混じり、固く締まる。

遺物出土状況 遺物は覆土全体からII群b類土器76点、スクレイパー1点、剥片2点、礫15点の計94点出土した。II群b類土器は小破片で、円筒土器下層d1式である。

時期 出土遺物から縄文時代前期後半と考える。

P-48

位置 21R・21S 規模 $0.91 \times (0.36) / 1.71 \times 1.44 / 1.18 \text{ m}$ 平面形(坑底面) 楕円形?

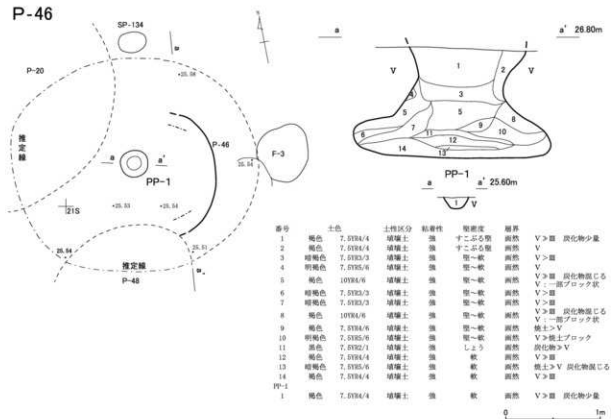
調査・特徴 P-46調査中、先行トレンチの南側に別遺構の覆土がみられた。改めてトレンチ南側のV層面を精査したところ、周囲とは色調の違う明褐色土のまとまりがみられたため、その北側を掘り下げた。土層断面の形状からフラスコ状土坑と判断した。南西側がP-61、北側がP-46と切りあい、坑底面の高さがほぼ同じである。P-46、P-61との新旧関係は不明である。付属遺構はない。

覆土 覆土は12層に分層した。すべてV層主体で、覆土2・5層はやや黒味強い。覆土2～7・9層は炭化物、覆土4～6・9層は焼土粒がそれぞれ少量混じる。覆土10層は被熱して、やや赤みがかかるV層ロームである。下層の覆土7・8・11層は固く締まる。

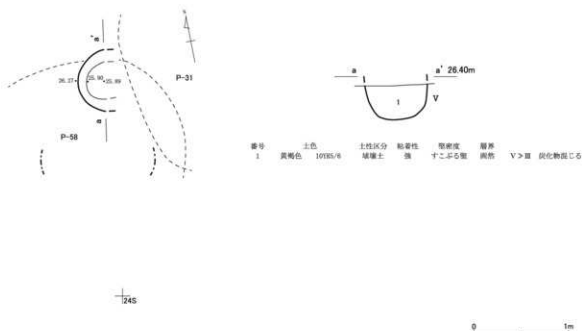
遺物出土状況 遺物は覆土中からII群b類土器94点、両面調整石器1点、スクレイパー1点、剥片30点、礫35点の計162点出土した。II群b類土器は円筒土器下層d1式である。

時期 出土遺物から縄文時代前期後半と考える。

P-46



P-47



図IV-52 P-46・P-47

P-49

位置 20 R・20 S 規模 1.06 × - / (1.00) × 1.28/0.86 m 平面形(坑底面) 楕円形?

調査・特徴 P-46 調査中、トレンチの北壁に遺構の土層を確認し、土層の断面形状から小型のフラスコ状土坑と判断した。土層を記録した後、残りの北側部分を調査した。

覆土 覆土は7層に分層した。すべてV層主体で、壁際の覆土5層が暗褐色、覆土1～4・6・7層は明褐色、褐色を呈する。上位の覆土1～4層は固く締まる。

付属遺構 小土坑(P P) 1基は坑底面の中央より北西側で確認した。平面形は長径42 cmの楕円形で、深さは8 cmと浅い。

遺物出土状況 遺物は覆土中からⅡ群b類土器26点、つまみ付きナイフ1点、剥片25点、北海道式石冠1点、礫22点の計75点出土した。Ⅱ群b類土器は小破片で、円筒土器下層d 1式が主体である。

時期 出土遺物から縄文時代前期後半と考える。

(愛場)

P-50

位置 19 L・19 M 規模 1.19 × (0.46) /1.72 × (0.65) /1.08 m 平面形(坑底面) 楕円形?

確認・特徴 V層面でにぶい黄褐色土のまとまりを確認した。トレンチ調査を行い、平坦な坑底面と、鋭角にオーバーハングし開口部付近でくびれ、開口部は強く開く断面を検出し、フラスコ状土坑と認定した。平面形はトレンチ調査により掘削し不明である。土坑の西側には埋設土器1があり、開口部を切って構築している。

覆土 24層に分層した。覆土12～24層は黒褐色土を主体とした土に、にぶい黄褐色土などのローム質土主体の土が挟まり、南側が高くなり北側が低くなる傾斜した堆積である。覆土7層は壁面から崩れたもの、フラスコ状のくびれ部より下位の覆土9層～11・14・15層は、覆土12層より下位の土よりやや明るい色調の暗褐色～黒褐色土が斜めに堆積する。フラスコ状のくびれから開口部までの覆土3～6層はローム質土を多く含む土が堆積しており、頭部の充填土と考えられる。覆土は人為によるものと考えられる。

付属遺構 坑底の中央部と考えられるところに小土坑(P P) 1基がある。

遺物出土状況 遺物はⅡ群b類土器126点、両面調整石器1点、スクレイパー2点、剥片2,626点、石核5点、たたき石1点、礫41点の計2,802点出土した。覆土中から剥片が突出して多く出土し、次いでⅡ群b類土器片、礫がある。Ⅱ群b類土器は円筒土器下層d 2式が主体である。

時期 時期を判断する遺物の出土は無いが、周辺の遺構・遺物から縄文時代前期後半である。

P-51

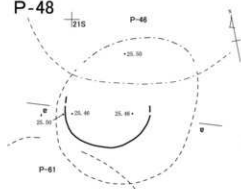
位置 19 O・20 O 規模 0.77 × (0.39) /1.52 × (0.70) /0.68 m 平面形(坑底面) 円形?

確認・特徴 V層で、にぶい黄褐色土のまとまりを確認した。遺構と想定しトレンチ調査を行ったところ、概ね平坦な坑底面とやや鋭角にオーバーハングし立ち上がり、くびれ部に向かい急に卒する土層断面を検出し、フラスコ状土坑と認定した。開口部は削平により欠失している。坑底面の平面形は円形と考えられる。付属遺構は検出していない。

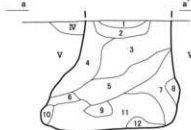
覆土 4層に分けた。最下位の覆土4層は褐色と灰黄褐色土の斑状で、覆土3層はフラスコ状の張り出しまで暗褐色土が堆積する。くびれ部と張り出しの上部までは、にぶい黄褐色土が堆積している。覆土は人為によるものである。

遺物出土状況 遺物はⅡ群b類土器51点、石槍・ナイフ1点、つまみ付きナイフ1点、剥片35点、石核1点、たたき石1点、原石1点、加工痕ある礫1点、礫22点の計114点で、うち坑底面からは石核1点が出た。

P-48



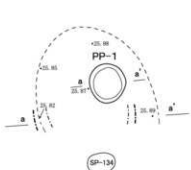
a' 26.70m



番号	土色	土性区分	粘着性	堅密度	層界	
1	明褐色 7.5YR5/6	硬質土	強	すこぶる堅	面然	V
2	にぶい黄褐色 10YR4/3	硬質土	強	すこぶる堅	面然	V 炭化物混じる
3	褐色 7.5YR4/6	硬質土	強	すこぶる堅	面然	V 炭化物少量
4	褐色 7.5YR4/4	硬質土	強	堅	面然	V>Ⅴ 炭土粒・炭化物少量
5	褐色 7.5YR4/3	硬質土	強	堅	面然	V>Ⅴ 炭土粒
6	褐色 7.5YR4/3	硬質土	強	軟	面然	V Ⅰ一部ブロック状・炭化物少量
7	褐色 7.5YR4/6	硬質土	強	すこぶる堅	面然	V 炭化物少量
8	明褐色 7.5YR5/6	硬質土	強	すこぶる堅	面然	V
9	褐色 7.5YR4/4	硬質土	強	堅	面然	V>Ⅴ 炭土粒・炭化物少量
10	褐色 7.5YR4/3	硬質土	強	軟	面然	V>Ⅴ
11	明褐色 7.5YR5/6	硬質土	強	すこぶる堅	面然	V Ⅰ一部炭熟・ブロック状
12	褐色 7.5YR4/4	硬質土	強	軟	面然	V Ⅰ一部炭熟・ブロック状

0 1m

P-49



a' 26.80m



a' 25.90m

番号	土色	土性区分	粘着性	堅密度	層界	
1	褐色 10YR4/6	硬質土	強	すこぶる堅	面然	V 炭化物少量
2	明褐色 7.5YR5/6	硬質土	強	すこぶる堅	面然	V
3	褐色 10YR4/6	硬質土	強	すこぶる堅	面然	V>Ⅴ 炭化物少量
4	褐色 7.5YR4/3	硬質土	強	すこぶる堅	面然	V>Ⅴ 炭化物少量
5	暗褐色 7.5YR3/4	硬質土	強	堅	面然	V>Ⅴ
6	明褐色 7.5YR5/6	硬質土	強	堅	面然	V 炭化物少量
7	明褐色 7.5YR5/6	硬質土	強	堅	面然	V 炭化物少量
PP-1						
1	褐色 7.5YR4/4	硬質土	強	堅	—	V>Ⅴ 炭化物少量

0 1m

図IV-53 P-48・P-49

Ⅱ群b類土器は円筒土器下層d1式が主体である。

時期 時期を判断する遺物の出土は無いが、周辺の遺構・遺物から縄文時代前期後半である。

P-52

位置 19R 規模 $1.68 \times (0.44) / 1.61 \times 1.40 / 1.33$ m 平面形(坑底面) 楕円形

確認・特徴 P-6の調査で、南西側の壁の立ち上がりに遺構の重複を確認した。土層断面を精査したところ平坦な坑底面と鋭角にオーバーハングし立ち上がる壁を検出し、フラスコ状土坑と認定した。付属遺構は検出していない。

覆土 14層に分けた。覆土1～7層までは開口部から頭部上部に充填されたローム質土主体の褐色～にぶい黄褐色土などで、頭部下位には覆土8層の暗褐色土が堆積し、覆土9層は壁面崩落土とみられる。覆土10～14層はオーバーハング部から坑底面を覆う堅密度が軟～しよの脆弱な土層で、北側から厚みを有し堆積していた。覆土は人為によるものである。

遺物出土状況 遺物は覆土からⅡ群b類土器161点、スクレイパー1点、Rフレイク1点、剥片29点、礫15点の計207点出土した。Ⅱ群b類土器は円筒土器下層d1式が主体である。

時期 時期を判断する遺物の出土は無いが、周辺の遺構・遺物から縄文時代前期後半である。

P-53

位置 19R・19S 20R・20S 規模 $1.70 \times (0.77) / 2.44 \times 2.49 / 1.80$ m 平面形(坑底面) 円形

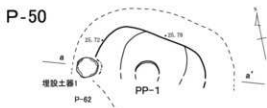
確認・特徴 表土除去後にV層で、にぶい黄褐色～灰黄褐色土のまとまりを確認した。遺構と想定しトレンチ調査を行ったところ、平坦な坑底面とオーバーハングし立ち上がる壁の断面を検出し、フラスコ状土坑と認定した。坑底面の平面形はやや歪な円形で、頭部と開口部はトレンチ調査により掘削してしましたが、円形と考えられる。覆土上位では埋設土器4がみられ、覆土下位では焼土や炭化材、多くの遺物が出土した。炭化材については採取し、4件について放射性炭素年代測定と樹種同定を行った。樹種同定の結果はすべてクリであった(付篇参照)。

覆土 35層に分層した。覆土下位の覆土21～34層は土坑の中央部が高くなる山形の堆積で、流動性の低い土が坑口などの高いところから入れられ、安息角が生じ円錐形に堆積した土の断面である。覆土23・25・27・34層には焼土が混じる。これより上位の覆土は覆土5層を境に、山形の堆積を覆う土と頭部から開口部の充填土に分かれる。山形の堆積を覆う覆土11～20層は、覆土15層の黒褐色土を除きローム質土主体である。覆土1～5は黄褐色土を主体としたローム質土で頭部上位～開口部を充填しており、この中央に埋設土器4が正立していた。埋設土器4の下位の7層は暗褐色土で剥片を多く含む(PFC-1)。覆土は人為によるものである。

付属遺構 付属遺構は焼土(PF)1か所、剥片集中(PFC)1か所である。PF-1は坑底の中央付近に広がり、その上面には炭化材と土器片が散在している。PF-1は坑底で焚かれたものではなく、にぶい赤褐色を呈する坑底直上の覆土34層と同じものである。PFC-1は埋設土器4の下位の覆土7層中にまとまってみられた。

遺物出土状況 遺物はⅡ群b類土器937点、焼成粘土塊3点、両面調整石器3点、スクレイパー7点、Rフレイク3点、Uフレイク1点、剥片7,836(うちPFC-1は7,057)点、石核1点、磨製石斧2点、たたき石1点、扁平打製石器3点、原石5点、礫95点、石製品2点の計8,899点出土した。坑底面直上のPF-1上面やその周辺の床面から出土した土器は447点で、破片が多かったが、Ⅱ群b類の円筒土器下層d1式3個体が復元された。

P-50



番号	土色	土性区分	粘着性	堅硬度	層界
1	にぶい黄褐色 10YR5/3	硬礫土	強	やや硬	明瞭
2	黒褐色 7.5YR3/1	硬土	中	やや硬	明瞭
3	にぶい黄褐色 10YR5/4	硬礫土	強	やや硬	明瞭
4	灰黄褐色 10YR4/2	硬礫土	強	軟	明瞭
5	にぶい黄褐色 10YR4/3	硬礫土	強	軟	明瞭
6	にぶい黄褐色 10YR5/3	硬礫土	強	軟	明瞭
7	明黄褐色 10YR6/6	硬土	強	堅	明瞭
8	黄褐色 10YR5/8	硬礫土	強	軟～しろう	明瞭
9	黒褐色 10YR2/2	硬礫土	強	軟～しろう	明瞭
10	黒褐色 10YR2/3	硬礫土	強	軟	明瞭
11	黒褐色 10YR3/3	硬礫土	強	軟	明瞭
12	黒褐色 10YR2/2	硬礫土	強	軟	明瞭
13	黒褐色 10YR2/2	硬礫土	強	軟	明瞭
14	明黄褐色 10YR6/6	硬土・硬礫土	強	軟	明瞭
15	黄褐色 10YR5/4	硬土	強	軟	明瞭

下段は炭化材とフレイク多い
壁面の断面

炭化物 $\phi 0.3 \sim 0.5\text{cm}$ 含む
炭化物 $\phi 0.3 \sim 0.5\text{cm}$ 含む
炭化物 $\phi 0.3 \sim 0.5\text{cm}$ 含む

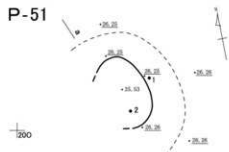
縦状Vブロック状



番号	土色	土性区分	粘着性	堅硬度	層界
15	黒褐色 10YR2/2	硬礫土	強	軟	明瞭
16	にぶい黄褐色 10YR5/4	硬礫土	強	軟	明瞭
17	黒褐色 10YR2/2	硬礫土	強	軟	明瞭
18	黒褐色 10YR2/2	硬礫土	強	軟	明瞭
19	にぶい黄褐色 10YR5/4	硬礫土	強	軟	明瞭
20	にぶい黄褐色 10YR4/3	硬礫土	強	軟	明瞭
21	にぶい黄褐色 10YR4/3	硬礫土	強	軟	明瞭
22	明黄褐色 10YR6/6	硬土	強	軟	明瞭
23	黒褐色 10YR3/1	硬礫土	強	しろう	明瞭
24	灰黄褐色 10YR4/2	硬礫土	強	軟	明瞭

0 1m

P-51



(下線)は横断面

取上げ番号

番号	土色	土性区分	粘着性	堅硬度	層界
1	にぶい黄褐色 10YR5/3	硬礫土	強	やや硬	明瞭
2	黒褐色 7.5YR3/1	硬土	中	やや硬	明瞭
3	にぶい黄褐色 10YR5/4	硬礫土	強	やや硬	明瞭
4	灰黄褐色 10YR4/2	硬礫土	強	軟	明瞭
5	にぶい黄褐色 10YR4/3	硬礫土	強	軟	明瞭
6	にぶい黄褐色 10YR5/3	硬礫土	強	軟	明瞭
7	明黄褐色 10YR6/6	硬土	強	堅	明瞭
8	黄褐色 10YR5/8	硬礫土	強	軟～しろう	明瞭
9	黒褐色 10YR2/2	硬礫土	強	軟～しろう	明瞭
10	黒褐色 10YR2/3	硬礫土	強	軟	明瞭
11	黒褐色 10YR3/3	硬礫土	強	軟	明瞭
12	黒褐色 10YR2/2	硬礫土	強	軟	明瞭
13	黒褐色 10YR2/2	硬礫土	強	軟	明瞭
14	明黄褐色 10YR6/6	硬土・硬礫土	強	軟	明瞭
15	黄褐色 10YR5/4	硬土	強	軟	明瞭



番号	土色	土性区分	粘着性	堅硬度	層界
1	にぶい黄褐色 10YR4/3	硬礫土	中～強	やや硬	明瞭
2	にぶい黄褐色 10YR5/4	硬礫土	中～強	やや硬	明瞭
3	明黄褐色 10YR6/6	硬土	中～強	軟	明瞭
4	灰黄褐色 10YR4/2	硬礫土	強	やや硬	明瞭

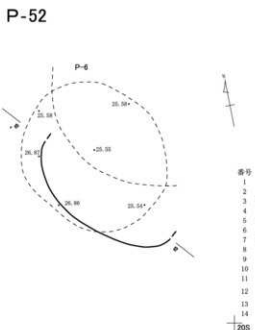
微細炭化物散見する

高炭素炭化物散見する



●数字は取上げ番号

P-52



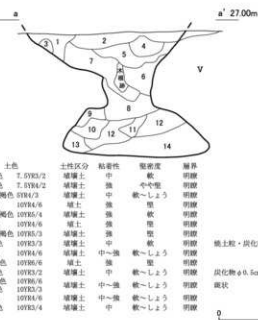
番号	土色	土性区分	粘着性	堅硬度	層界
1	黒褐色 7.5YR3/2	硬礫土	中	軟	明瞭
2	灰黄褐色 7.5YR4/2	硬礫土	強	やや硬	明瞭
3	にぶい黄褐色 10YR4/3	硬礫土	中	軟～しろう	明瞭
4	褐色 10YR4/6	硬土	強	堅	明瞭
5	にぶい黄褐色 10YR5/4	硬礫土	強	軟	明瞭
6	褐色 10YR4/6	硬土	強	堅	明瞭
7	にぶい黄褐色 10YR5/3	硬礫土	強	堅	明瞭
8	明黄褐色 10YR6/6	硬土	中	軟	明瞭
9	褐色 10YR4/6	硬土	中～強	軟～しろう	明瞭
10	明黄褐色 10YR6/6	硬土	中	軟	明瞭
11	黒褐色 10YR2/2	硬礫土	中	軟～しろう	明瞭
12	明黄褐色 10YR6/6	硬土	中～強	軟～しろう	明瞭
13	褐色 10YR4/6	硬土	中～強	軟～しろう	明瞭
14	暗褐色 10YR3/4	硬礫土	中	軟～しろう	明瞭

粘土粒・炭化物をわずかに含む

炭化物 $\phi 0.5\text{cm}$ 含む

縦状

0 1m



図IV-54 P-50・P-51・P-52